



抱っこひも安全協議会

Japan Baby Carrier Council Safety

# ヒヤリハットアンケート 2024

結果レポート



## Contents

ヒヤリハットアンケートについて P3

抱っこひも安全協議会の活動による成果 P4

1. 事故調査の必要性
2. 追加アンケートの実施 (現在実施中)
3. ヒヤリハットの分析
4. 事故の発生状況
5. 追加質問について
6. 2024年度に現れた変化・傾向

アンケート結果 P9

ヒヤリハットがありました【2,728件】について P20

事故がありました【132件】について P25

自転車の利用について P33

使用後の抱っこひもについて P38

使用デバイスについて P41

ヒヤリハットアンケート 2024





## ヒヤリハットアンケートについて

抱っこひも安全協議会（日本国内抱っこひも製造・輸入・販売事業者39社）では、年に1度、抱っこひも使用に関わる事故経験およびヒヤリハット経験を調査しております。アンケートはインターネットを通じたウェブアンケート方式で実施し、インセンティブとして回答者から無作為に選ばれた100名にデジタルクオカード500円分を進呈しています。募集に際しては、抱っこひも安全協議会会員各社のユーザー登録者への案内、運用するSNSでの告知に加え、抱っこひもを販売する事業者にも会員メール等で告知協力をいただきました。第7回目となる2024年実施のアンケートでは、8,611件の回答を得ることができました。

ヒヤリハットアンケートは、主に以下3つの目的で実施しております。

1. 抱っこひも安全協議会の活動評価
2. 抱っこひも安全協議会会員への事故情報提供
3. 抱っこひもユーザーの使用実態の把握

	回答数	ヒヤリハット件数
第1回2017年2月プレスリリース	758件	*ヒヤリハットのみ
2018年度	2,497件	**ヒヤリハット+事故 777件(31%)
2019年度	3,696件	973件(26%)
2020年度	3,726件	736件(20%)
2021年度	4,119件	1,671件(41%)
2022年度	1,917件	513件(27%)
2024年度	8,611件	2,728件(32%)

## 抱っこひも安全協議会の活動による成果

抱っこひも安全協議会は2016年より約9年間、抱っこひもの使用に関する安全啓発活動を行ってまいりました。また、ヒヤリハットアンケートは2018年より継続的に実施し、活動の効果をモニタリングしておりますが、残念ながらヒヤリハット・事故発生状況に変化は見られません。この状況は3つの数値で表すことができます。

30%  
ヒヤリハット

1.5%  
事故

0.7%  
落下事故

## 3つのヒヤリハットパターン



すり抜け



のけ反り・おじぎ



おんぶ

## 1. 事故調査の必要性

アンケート結果によれば、抱っこひも使用者の1.5%が何らかの被害が生じた「事故」を経験しています。これには落下による重篤な被害が生じる事故から、擦り傷やうっ血など比較的軽度のものまで含まれています。

また、事故に至る可能性のある状況において、製品の安全装置が作動したり、周囲の方に助けられたり、取扱説明書等の注意喚起を思い出すなどの抑止効果により、最終的な事故を回避できた経験を、私たちは「ヒヤリハット体験」と定義しています。使用者の32%がこの危険な体験をしています。

これらの「事故」と「ヒヤリハット」において、使用者の環境や状況にどのような違いがあるのでしょうか。発生数と事例の多い「ヒヤリハット体験」は、使用者全員に共通する事故リスクを見出すことができると考えられます。ヒヤリハットの先には事故が潜んでいるため、この情報は安全啓発として極めて有意義です。

一方、事故事例を個別に調査することで、最終的に事故につながった要因とヒヤリハットとの違いを明らかにできるのではないかと考えました。

## 2. 追加アンケートの実施（現在実施中）

今回のアンケートで事故の回答をいただいた方に追加情報の提供を依頼し、より詳細な状況を伺うインタビューを予定しております。

---

落下による骨折・打撲・外傷	67
衝突・転倒による骨折・打撲・外傷	19
窒息	1
火傷	0
皮膚の擦り傷・切り傷・挟んだ傷など（落下・転倒以外の外傷）	17
脚や手等の強い圧迫（うっ血）	11
胴体の強い圧迫	0
ご使用者（パパ、ママ）への被害	6
その他（自由記述）	11

---



### 3. ヒヤリハットの分析

ヒヤリハットは事故を回避できた事象として捉えています。これらの事例が事故に至った場合、最も発生が予測される事故は「落下による骨折・打撲・外傷」でした。これは実際に発生している事故と同種であり、最も発生率の高いリスクとなっています。この傾向は過去の調査結果とも一致しています。

事故にならずヒヤリハットで済んだ理由として、最も多かった回答は「周囲の手助けなど」でした。これは主に、使い慣れない時期に補助を受けながら使用する際に発生したヒヤリハット体験であることが推察されます。

### 4. 事故の発生状況

事故は残念ながら継続して発生しており、全体の1.5%にあたる132件の報告がありました。そのうち67件（事故発生の51%）が「落下による骨折・打撲・外傷」でした。

詳細については事故調査レポートをご参照ください。

### 5. 追加質問について

今回のアンケートから、以下の質問項目を新たに追加しました。

- 商品の使い方を調べた際に使用したデバイス（装置）について
- 商品の使い方を調べた際に使用した情報源やコンテンツについて

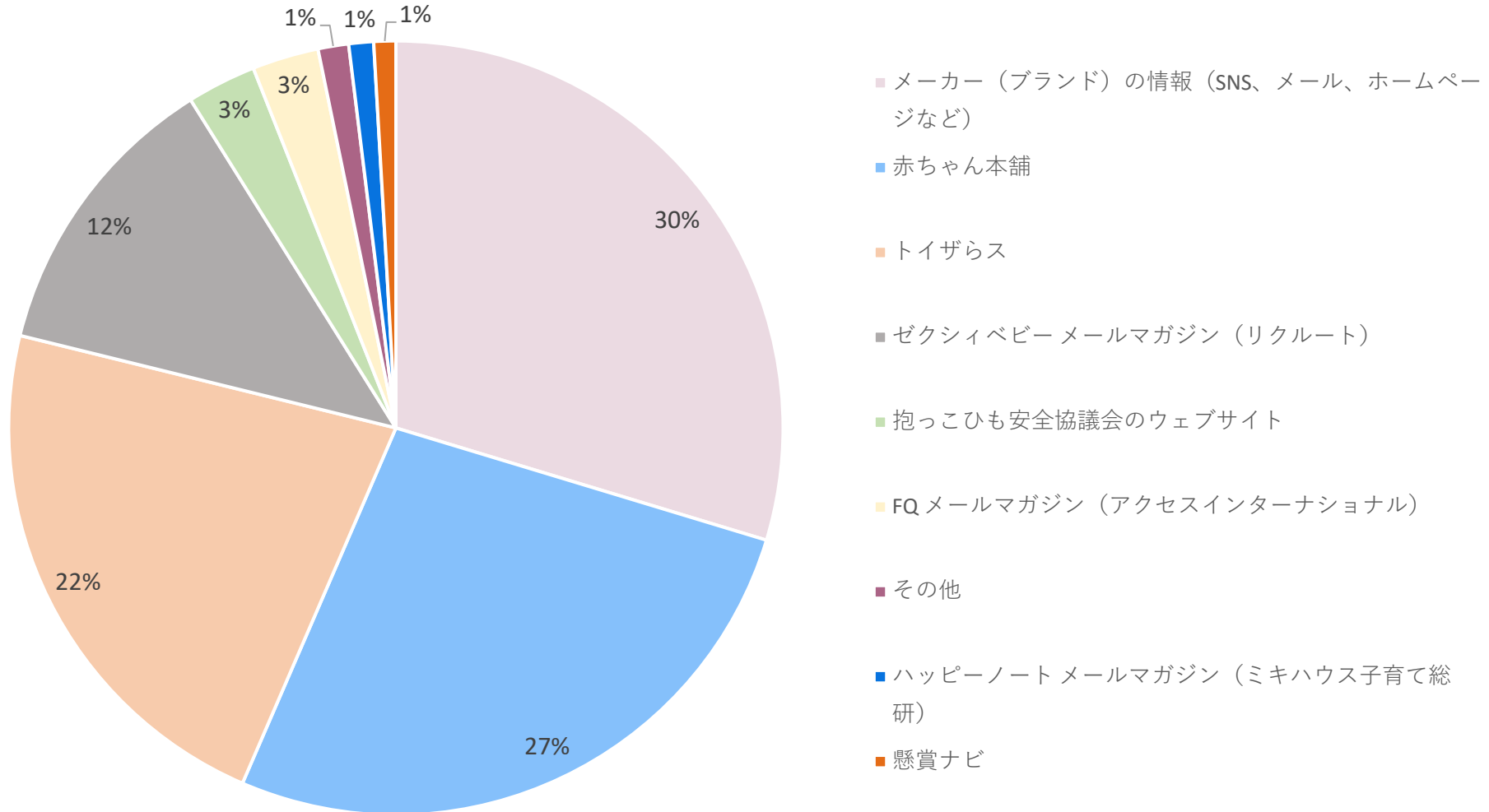


## 6. 2024年度に現れた変化・傾向

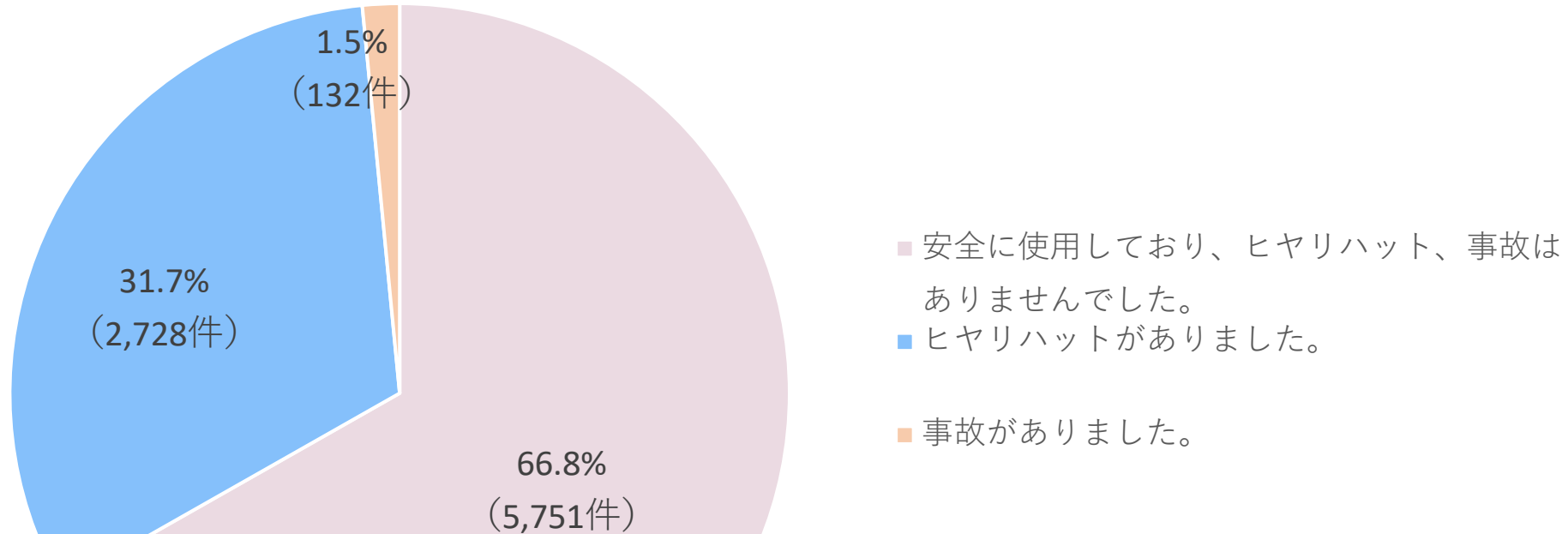
- ・2023年はおさがり4%、中古品購入3%、合計7%でしたが、2024年は約2倍の約14%まで増加しました。  
中古品を購入したと回答したユーザーが最も多くヒヤリハットを経験しており、事故が発生した割合も高くなっています。
- ・ヒヤリハット体験者の中で、取扱説明書が「元からなかった」と回答した約83%の入手経路がおさがり、または中古の抱っこひもでした。
- ・事故を経験した132件全体の23.5%は取扱説明書を理解していない、もしくは読まずに抱っこひもを使用していました。
- ・事故を経験した132件では、取扱説明書のとおり装着していたと回答した割合が前回と比較して大幅に減少（62%→47%）していました。
- ・事故を経験した58.4%は、ヒヤリハットや不慣れを実感していても使い続けていることで事故が発生している。
- ・事故を経験した約95%の人はメーカーへの報告をしていません。
- ・使用後の抱っこひもを譲ると回答した割合が18%、販売すると回答した割合が18%。今後さらに2次利用が増えることが想定される。実際に中古・おさがり入手が今年度は増加（7%→14%）
- ・アンケート全回答者の53%がスマートフォンで使い方を調べていました。紙の説明書でわかりにくい部分を動画等で補完的に理解している可能性があり、その際使用するデバイスはスマートフォンでした。
- ・使い方を調べるときに接した媒体は、Youtube,Instagram,X等のSNS利用率を合計すると34.7%となり、これはホームページ上の取扱説明書の利用率を上回る非常に高い結果となりました。



## アンケート告知媒体

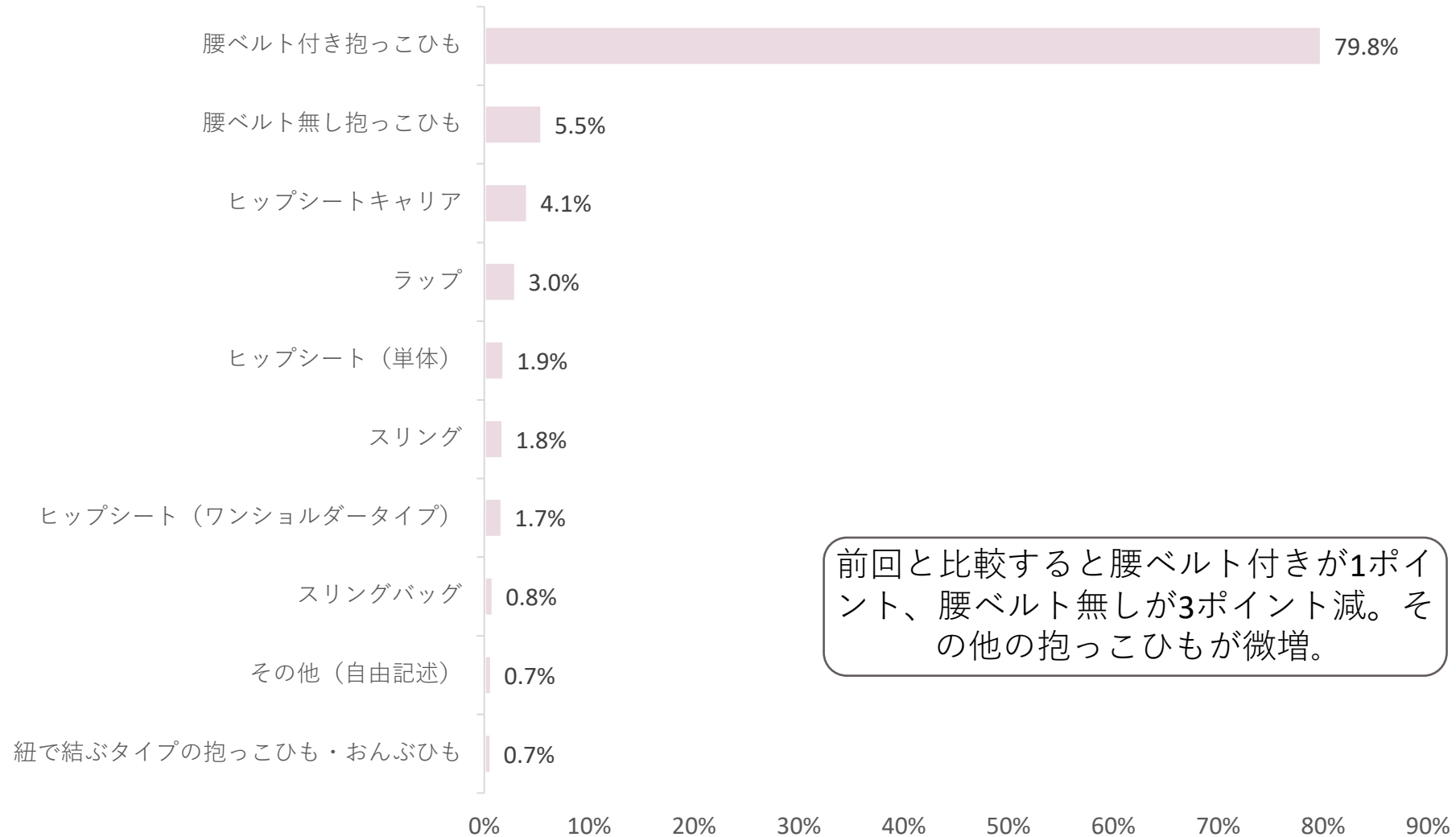


抱っこひもを安全に使用できていますか、使用できましたか。



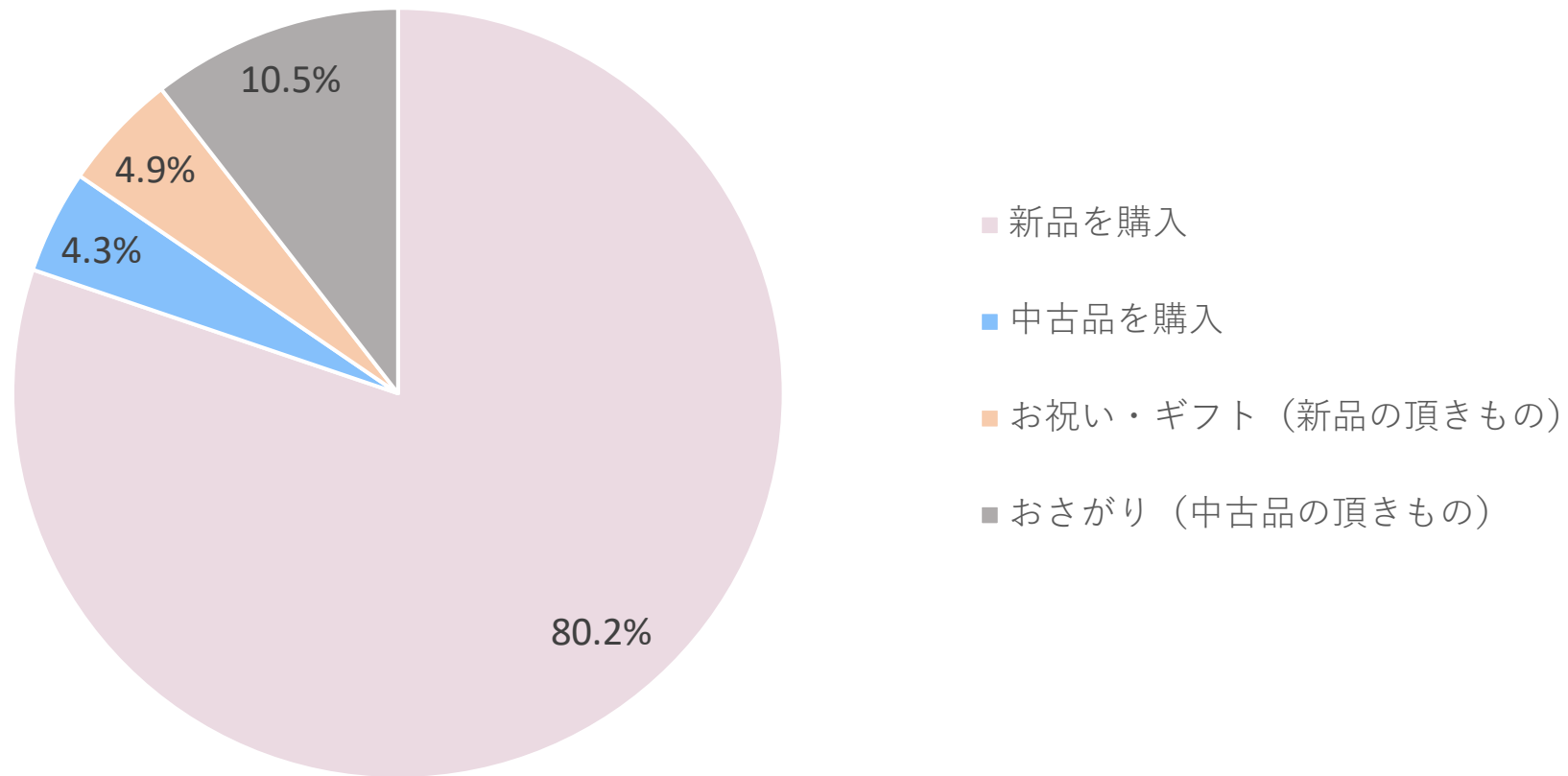
ヒヤリハットの件数が前回と比較して約4ポイント増加したことに伴い、安全に使用できたと回答した割合が約4ポイント減少。事故は変わらず、全体の約1.5%。

## 抱っこひもの種類

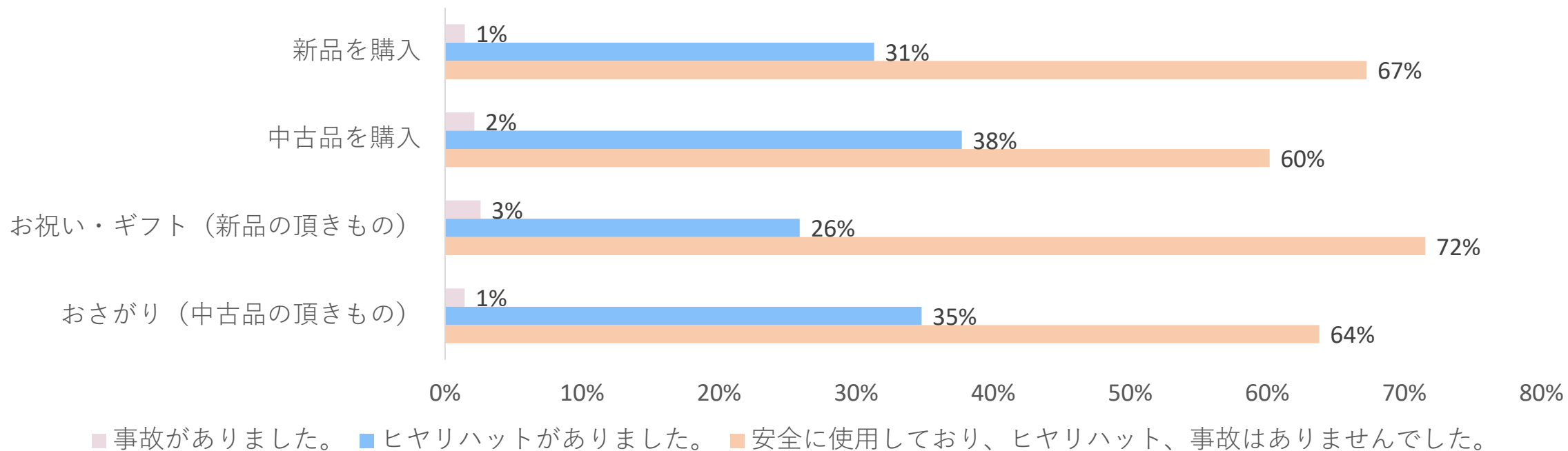




## 入手経路と安全性



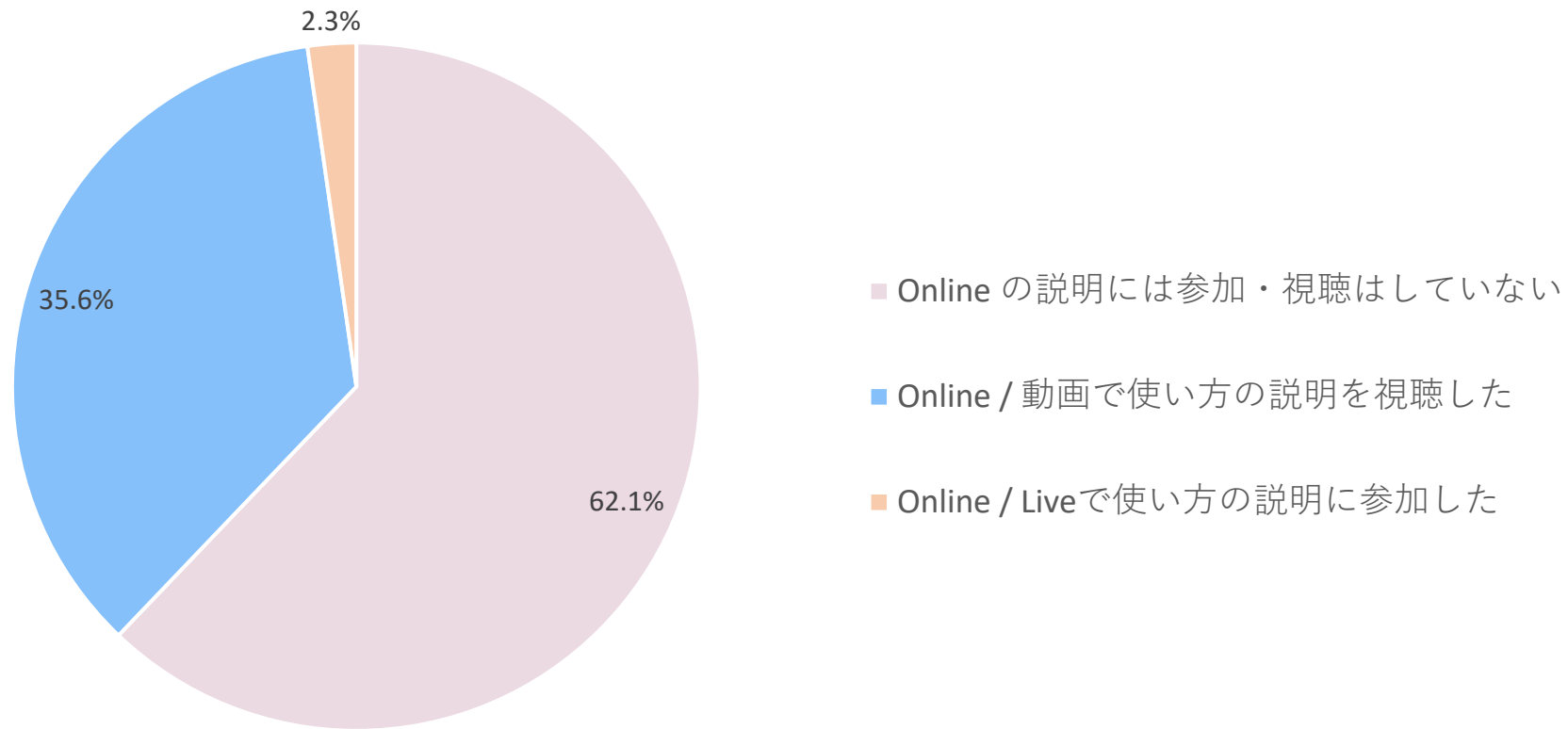
## 入手経路と安全性（つづき）



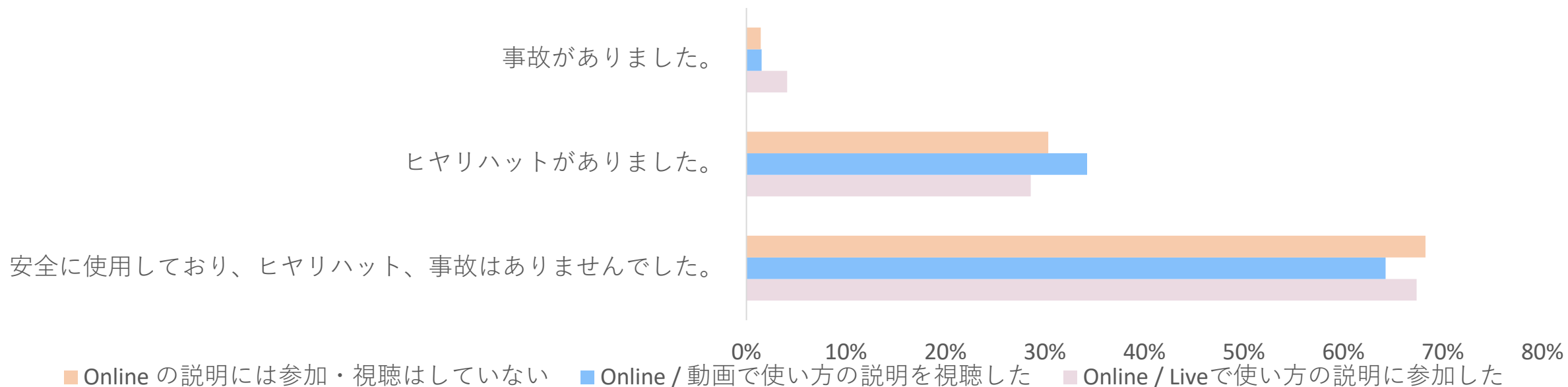
2023年はおさがり4%、中古品購入3%、合計7%でしたが、2024年は約2倍の約14%まで増加しました。  
中古品を購入したと回答したユーザーが最も多くヒヤリハットを経験しており、事故が発生した割合も高くなっています。

一方、新品を購入したユーザーもヒヤリハットや事故が起きたと回答しており、抱っこひもの適切な使用と安全に対する意識を高めることが求められています。

## オンライン説明について



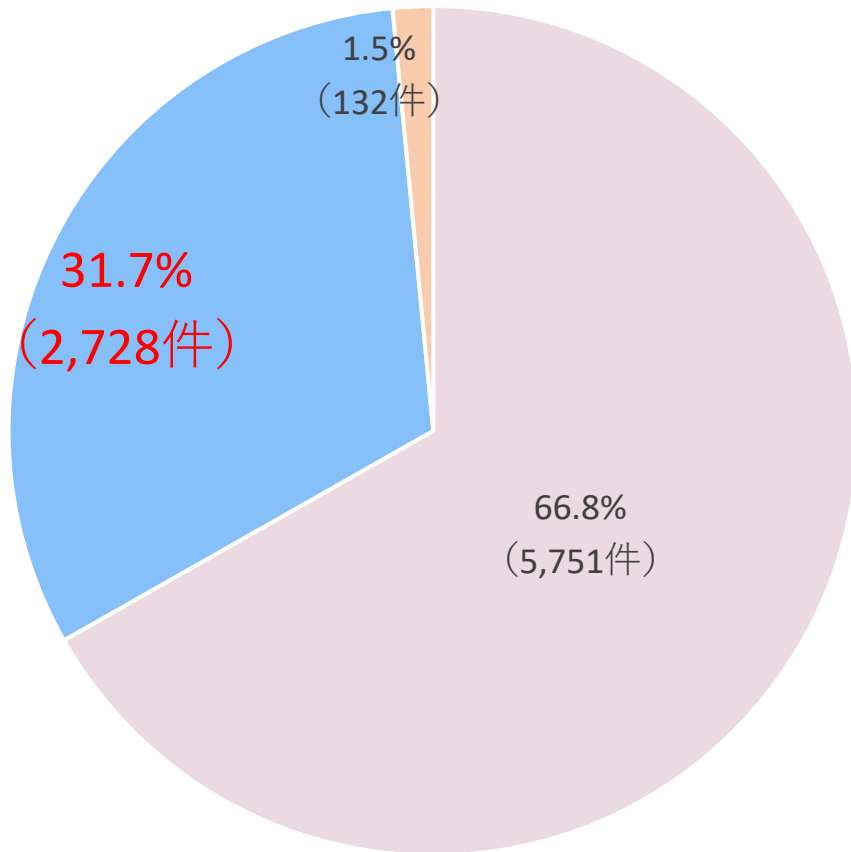
## オンライン説明×ヒヤリハット並びに事故について



Onlineの説明には参加・視聴していないと回答した割合は、前年比で10ポイント増加（2023年度は51%）しています。ただし、Online/Liveの説明会に参加した人や使い方の動画を視聴した人の中にもヒヤリハットや事故を経験した例があることから、動画視聴の有無とヒヤリハット・事故の発生には、必ずしも直接的な因果関係があるとは言えない可能性があります。

動画視聴だけではヒヤリハットや事故を減らすことはできないかもしれませんが、より効果的なコンテンツの作成によって、安全啓発ができるとよいのではないのでしょうか。

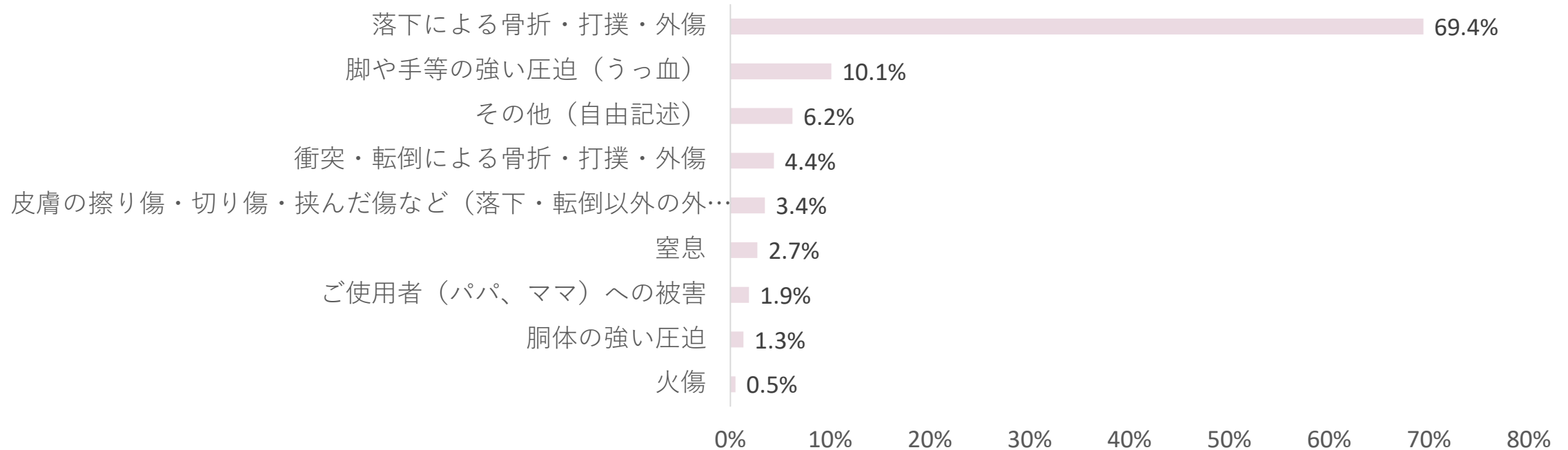
## ヒヤリハットがありました【2,728件】について



- 安全に使用しており、ヒヤリハット、事故はありませんでした。
- ヒヤリハットがありました。
- 事故がありました。

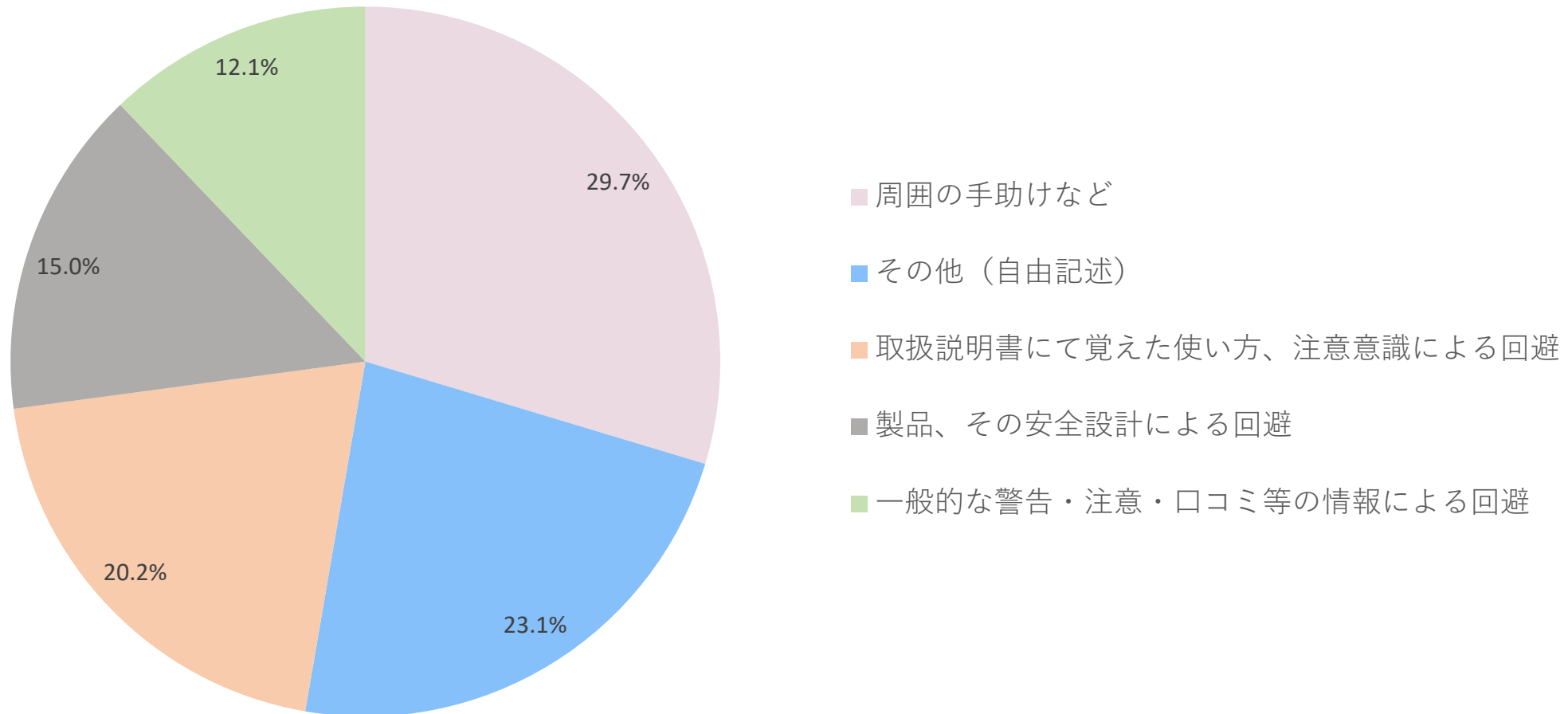


## どのような事故にならずにすみましたか



最も多いのは昨年と変わらず、「落下による骨折・打撲・外傷」であり、全体の69%を占めています。他にも、脚や手の強い圧迫（うっ血）、皮膚の擦り傷・切り傷・挟んだ傷など（落下・転倒以外の外傷）も報告されています。

## 事故にならずにヒヤリハットですんだ一番の理由は何ですか。



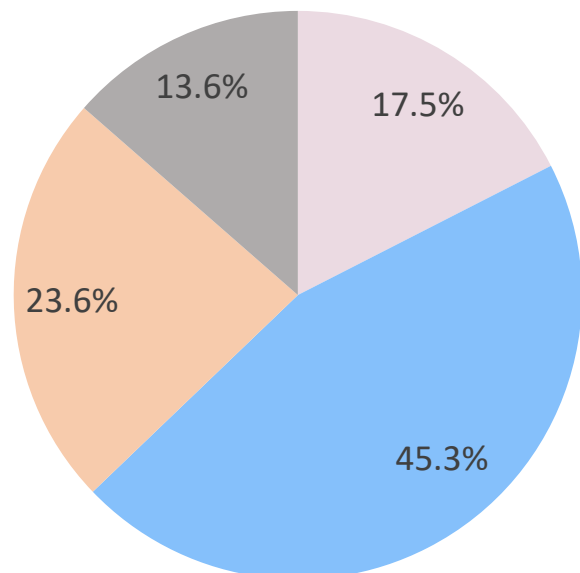


## 事故を回避するためのポイント

1. 正しい使い方と安全性への注意：取扱説明書を理解し、適切な装着方法と使い方を学びましょう。安全性を優先し、赤ちゃんの身体にしっかりフィットさせることが重要です。
2. 周囲の手助けと協力：他の**家族や周囲の人々に協力を仰ぎ、抱っこひもを使う際にサポートを受けることが大切**です。特に乳幼児の動きに注意を払いながら、安定して装着するよう努めましょう。
3. 製品の安全性確認：抱っこひもが危険を回避できる構造になっているか確認しましょう。SGマークなど安全基準を満たしていることも一つの指標です。
4. ヒヤリハットや事故事例の学習：ヒヤリハットや事故に関する事例を学び、特に典型的なお子さまの月齢や使用者の危険な動きに注意しましょう。
5. 常に注意と慎重さを持つ：抱っこひもを使用する際は常に注意を怠らず、バランスを保ちながら移動することが重要です。赤ちゃんの動きに注意を払い、安全性を確保しましょう。

## ヒヤリハットがありました【2,728件】について

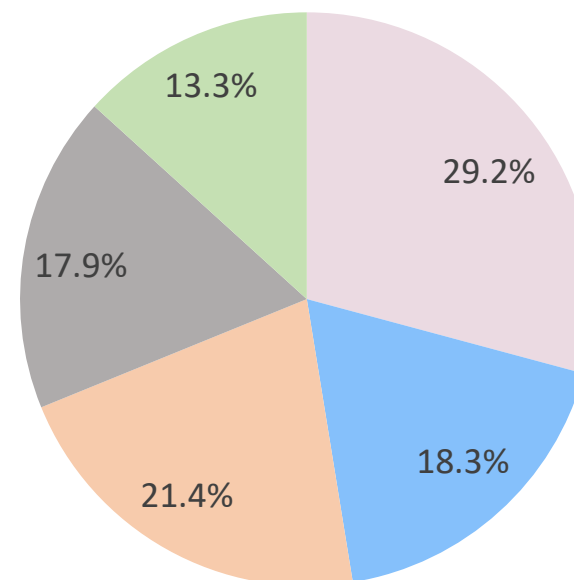
使い始めてからの期間



■ 1か月以内 ■ 1～6か月以内 ■ 6か月～1年以内 ■ 1年後以降

前回よりも1ヵ月以内が2ポイント、1年後以降が2.6ポイント増加。

使用頻度

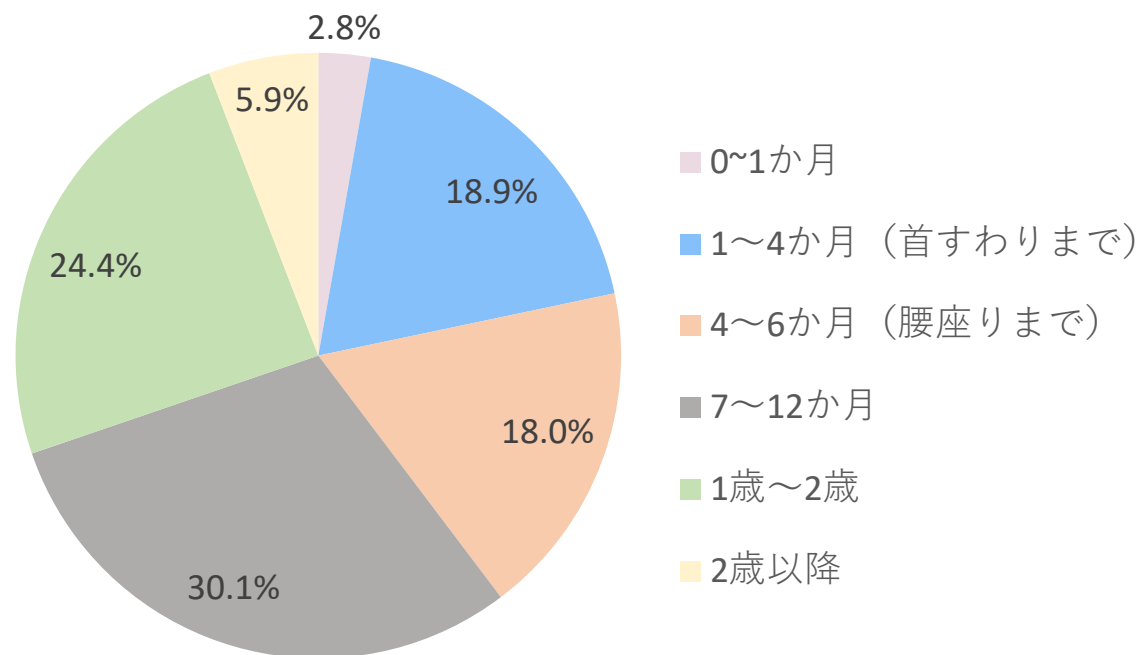


■ 毎日 ■ 週に5～6回 ■ 週に3～4回 ■ 週に1～2回 ■ 週に1回未満

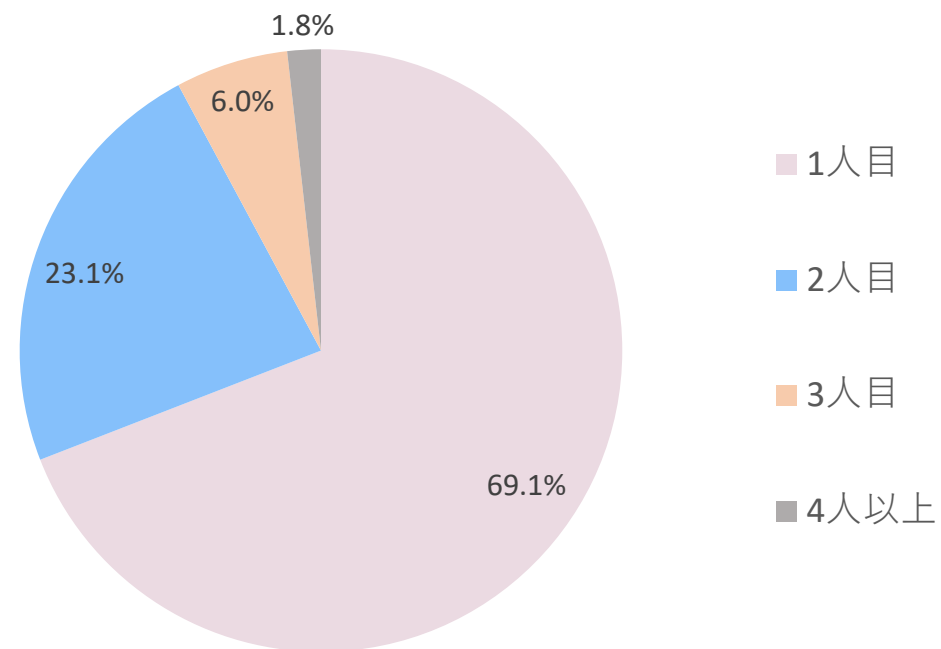
前回とほぼ変わらない結果。

## ヒヤリハットがありました【2,728件】について

使い始めてからの期間



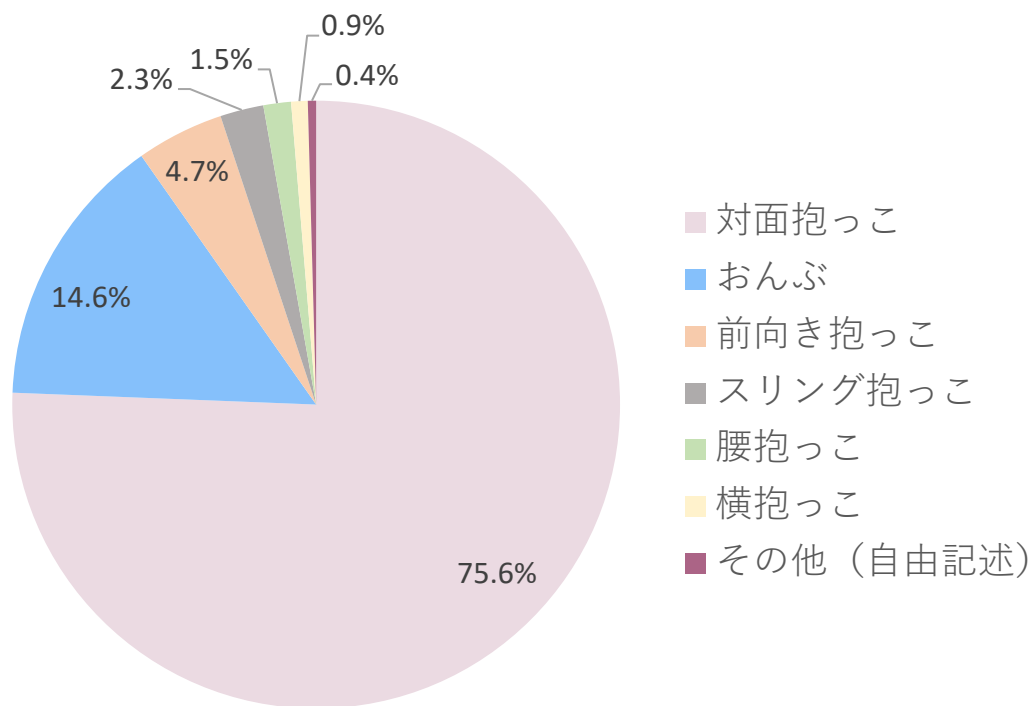
ヒヤリハットを経験したお子さま



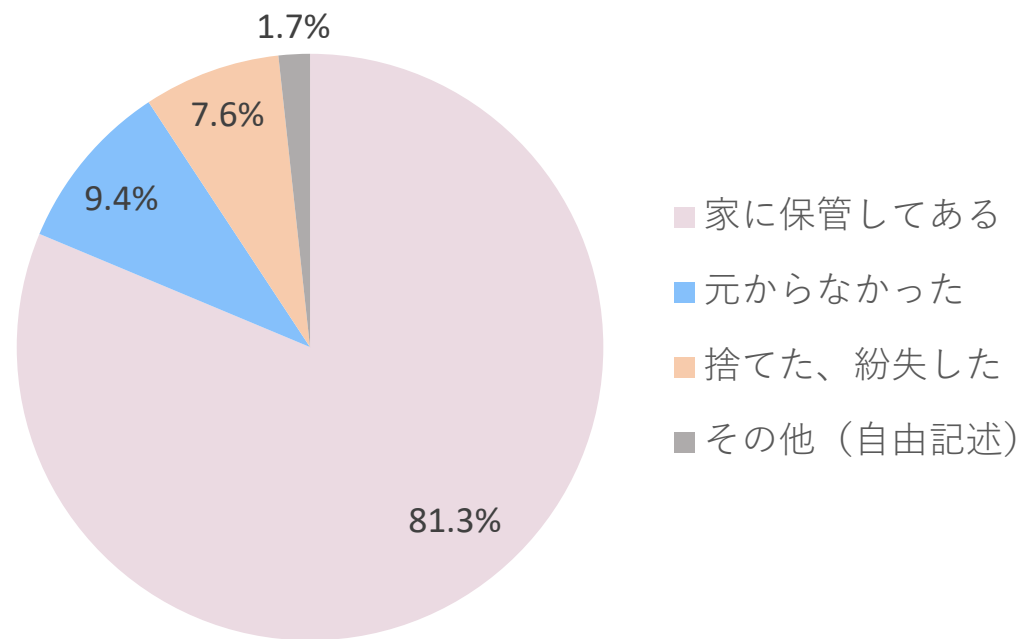
前回よりも1歳~2歳の割合が4.4ポイントも増加。前回に引き続き1ヵ月未満の割合が減少傾向で-1ポイント。

## ヒヤリハットがありました【2,728件】について

### ヒヤリハットを経験した抱き方



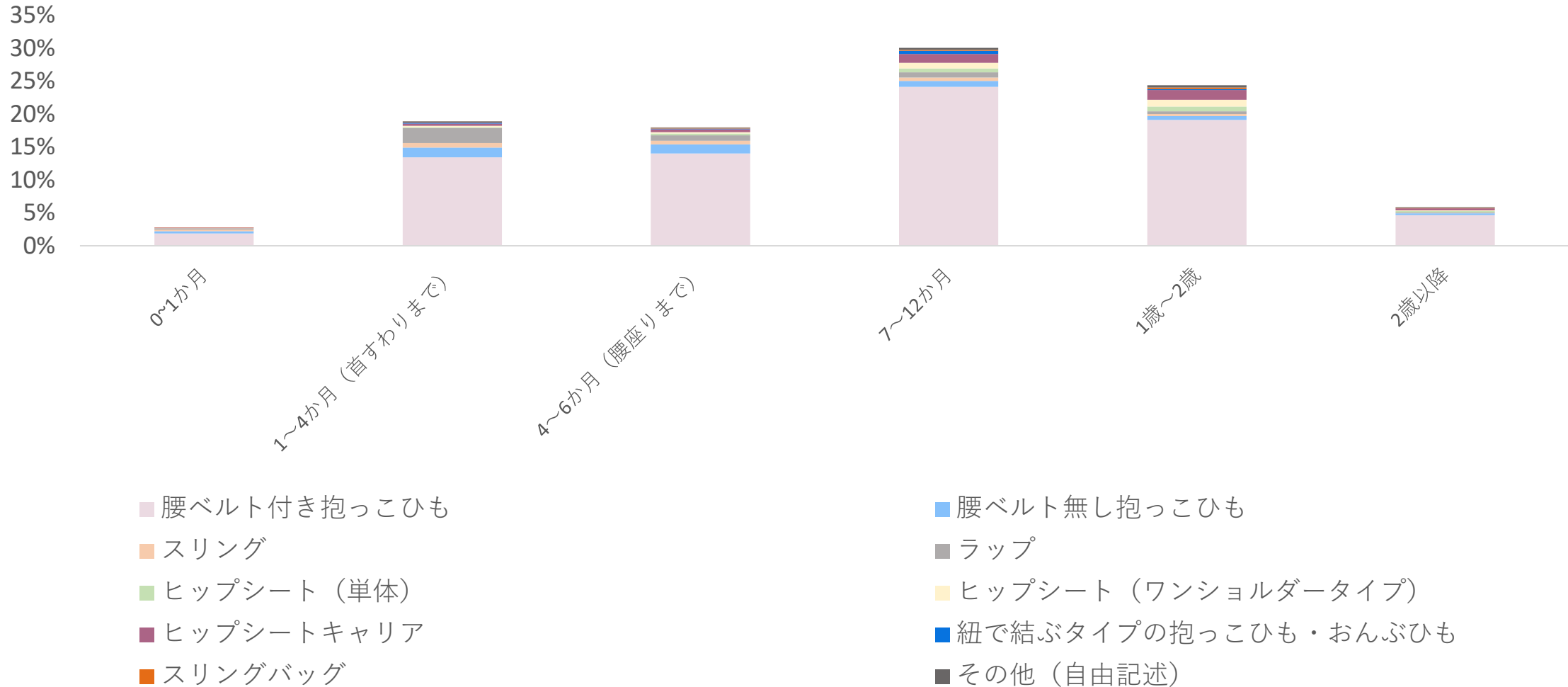
### 取扱説明書について



「元からなかった」と回答した約83%の入手経路がおさがり、または中古の抱っこひも

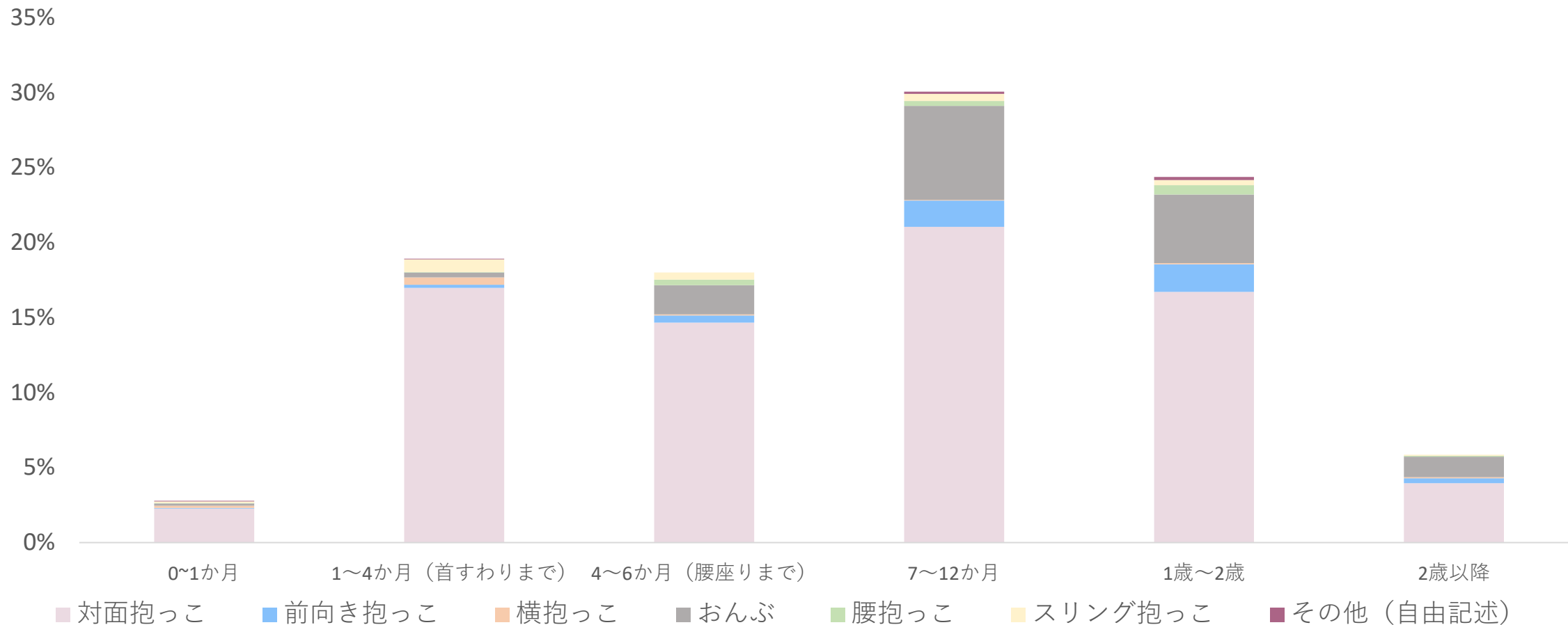
## ヒヤリハットがありました【2,728件】について

ヒヤリハットを経験したお子さまの月齢と抱っこひもの種類



## ヒヤリハットがありました【2,728件】について

ヒヤリハットを経験したお子さまの月齢と抱っこの方法



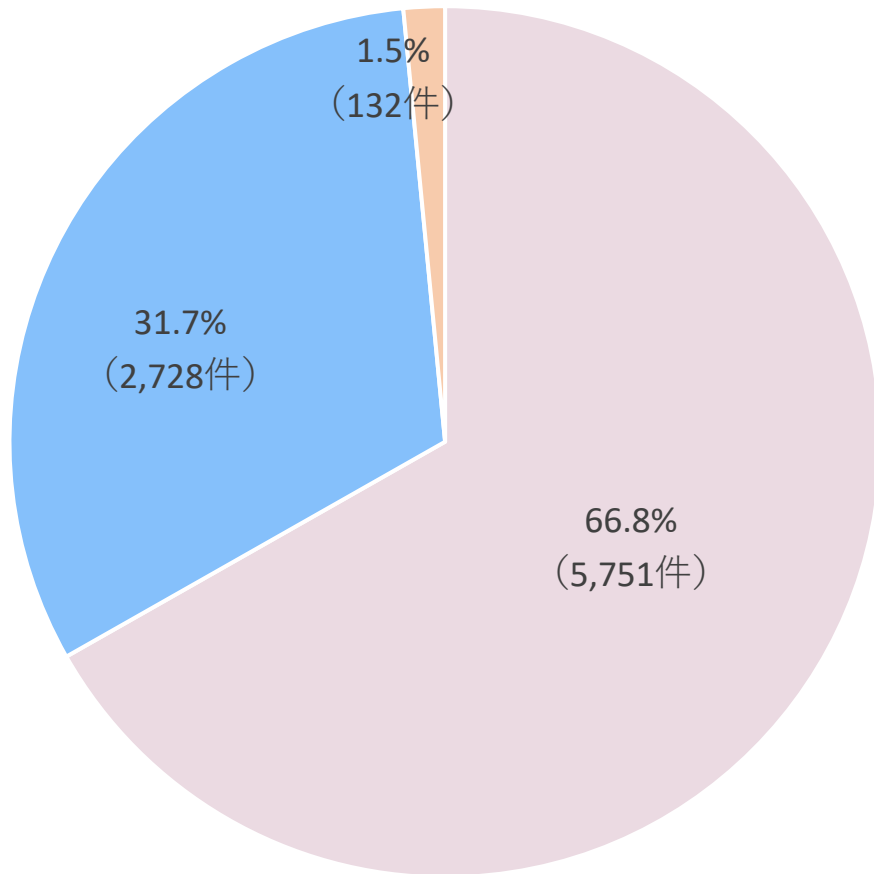
【対面抱っこ】と【腰ベルト付きタイプ】での7か月以降の割合が多かった。





## 事故がありました【132件】について

事故がありましたか



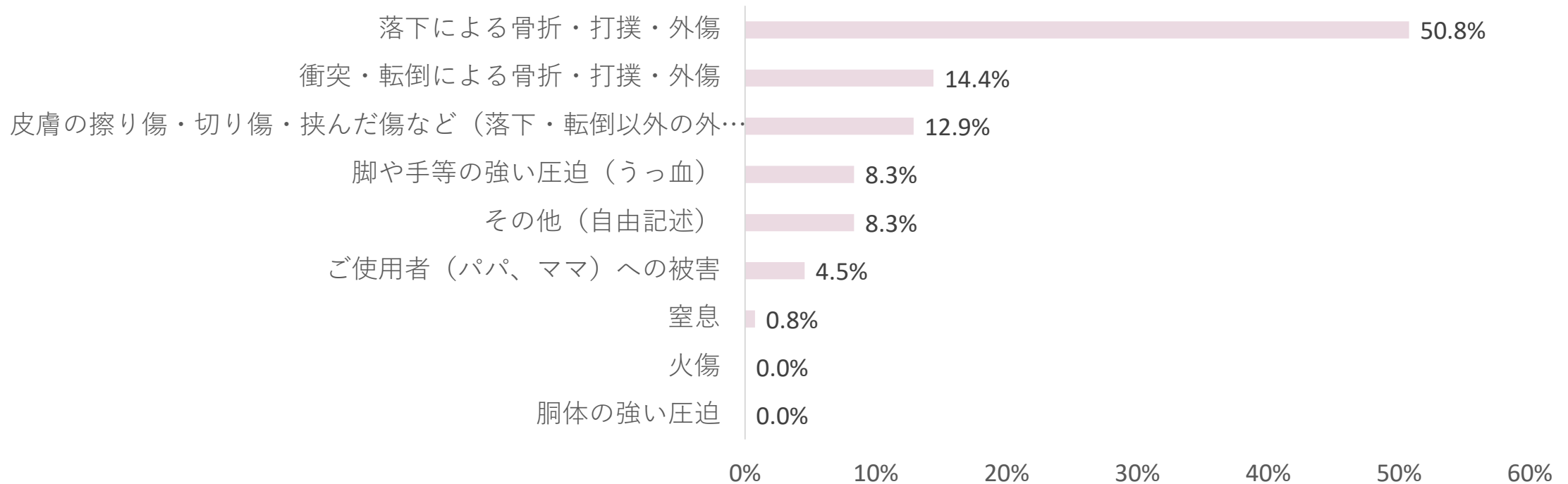
■ 安全に使用しており、ヒヤリハット、事故はありませんでした。

■ ヒヤリハットがありました。

■ 事故がありました。

## 事故がありました【132件】について

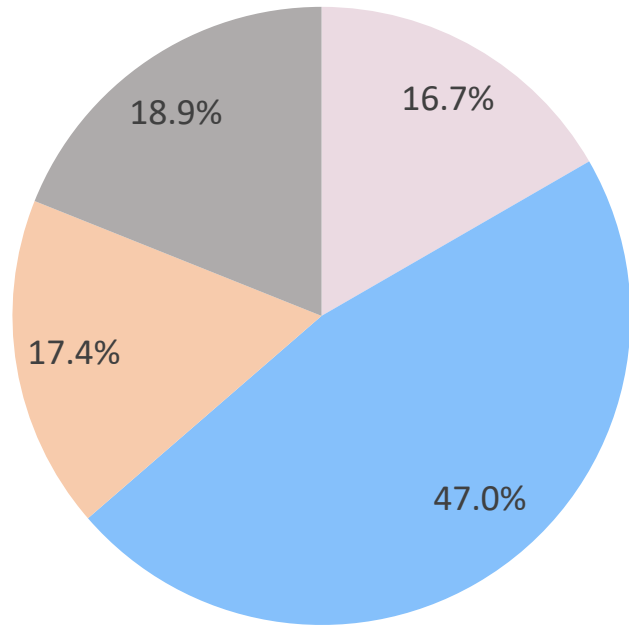
どのような事故にでしたか



事故でも最も多いのは「落下による骨折・打撲・外傷」で67件ありました。次に、衝突・転倒による骨折・打撲・外傷が19件で、皮膚の擦り傷・切り傷・挟んだ傷など（落下・転倒以外の外傷）が17件と続いています。

## 事故がありました【132件】について

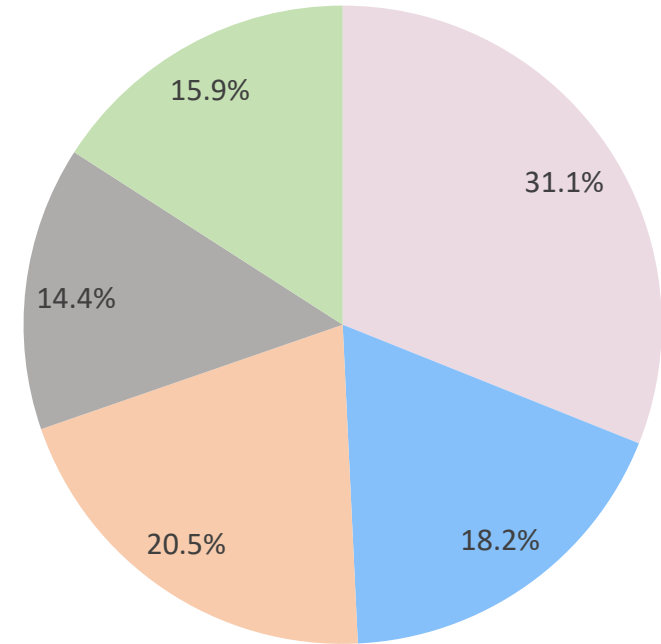
使い始めてからの期間



■ 1か月以内 ■ 1~6か月以内 ■ 6か月～1年以内 ■ 1年後以降

前回同様1~6か月以内が最も多い結果となった。前回と比較して1か月以内の事故が5ポイント増加。

製品の使用頻度

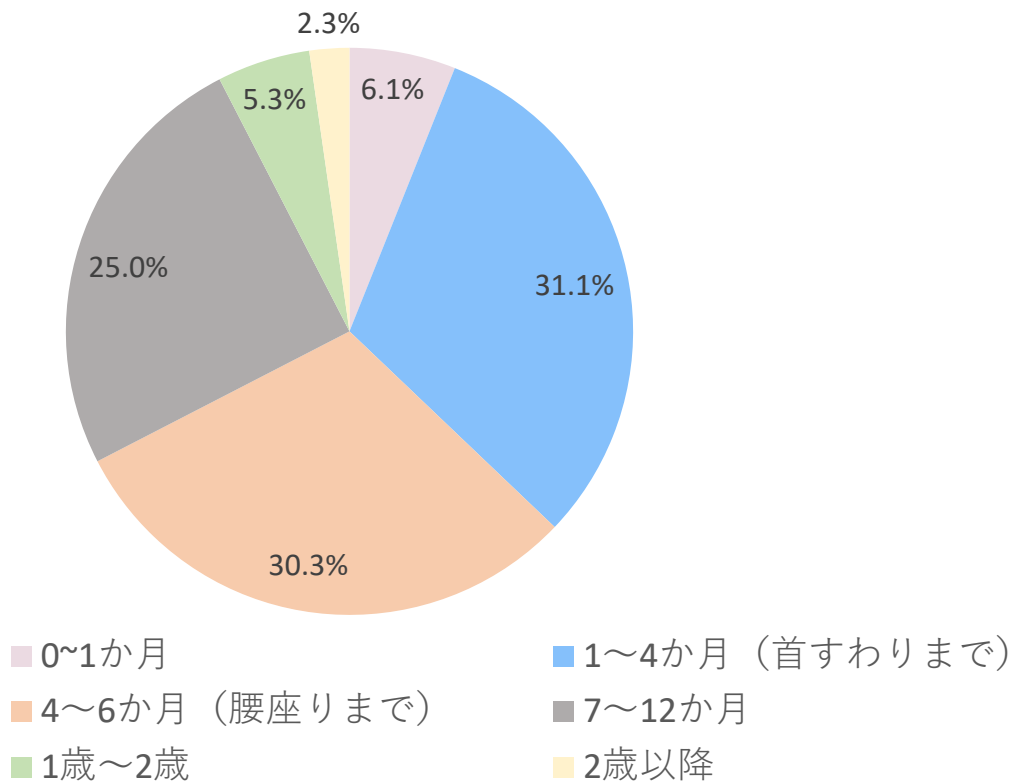


■ 毎日 ■ 週に5~6回 ■ 週に3~4回 ■ 週に1~2回 ■ 週に1回未満

ヒヤリハットとほぼ同様の結果に。

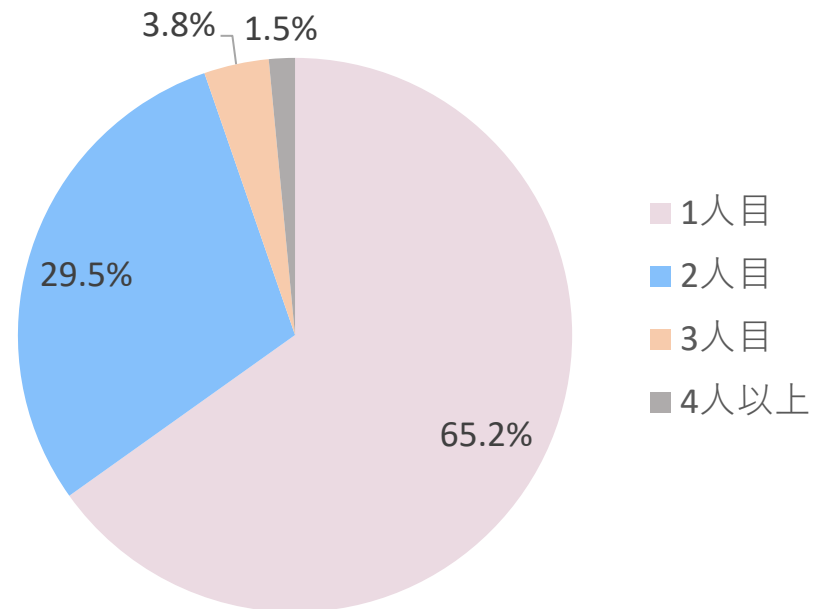
## 事故がありました【132件】について

事故時のお子さまの年齢



前回と比較して1~4か月の割合が7ポイント増加。それに伴い、7~12か月の割合が減少。  
慣れていない低月齢児の事故が多い。

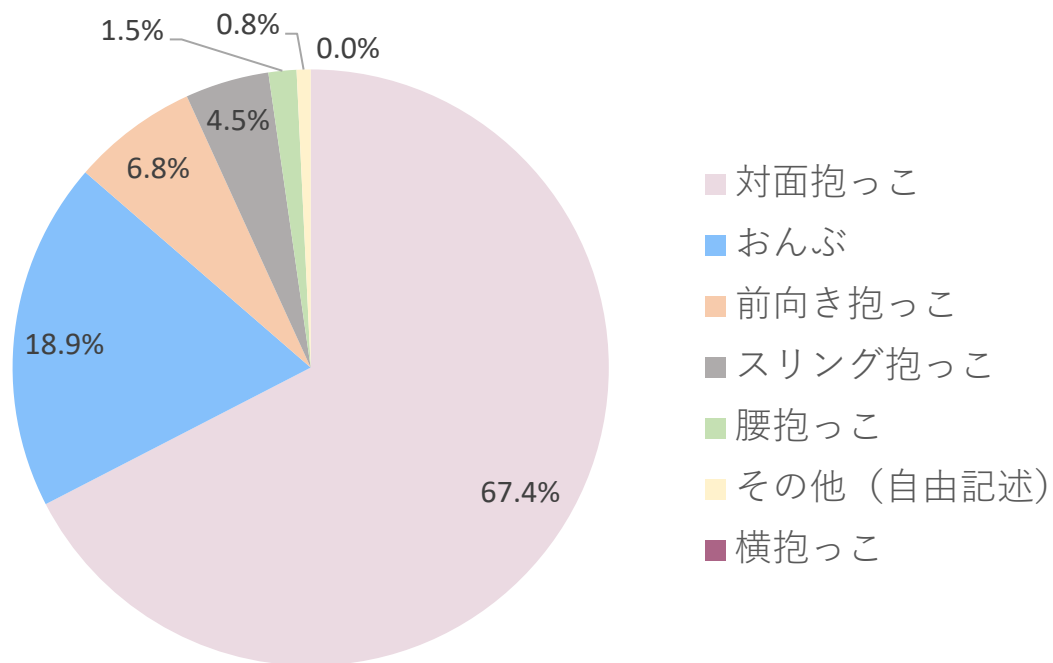
事故にあわれたお子さま



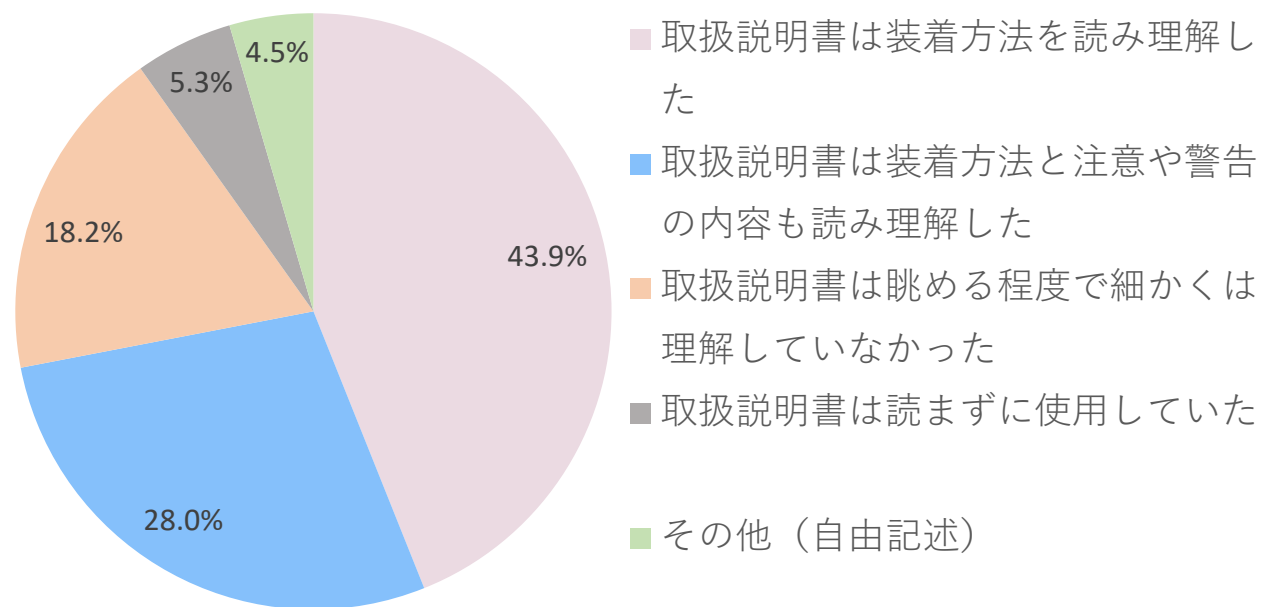
ヒヤリハットよりも2人目の割合が増加

## 事故がありました【132件】について

### 事故にあわれたお子さま（つづき）



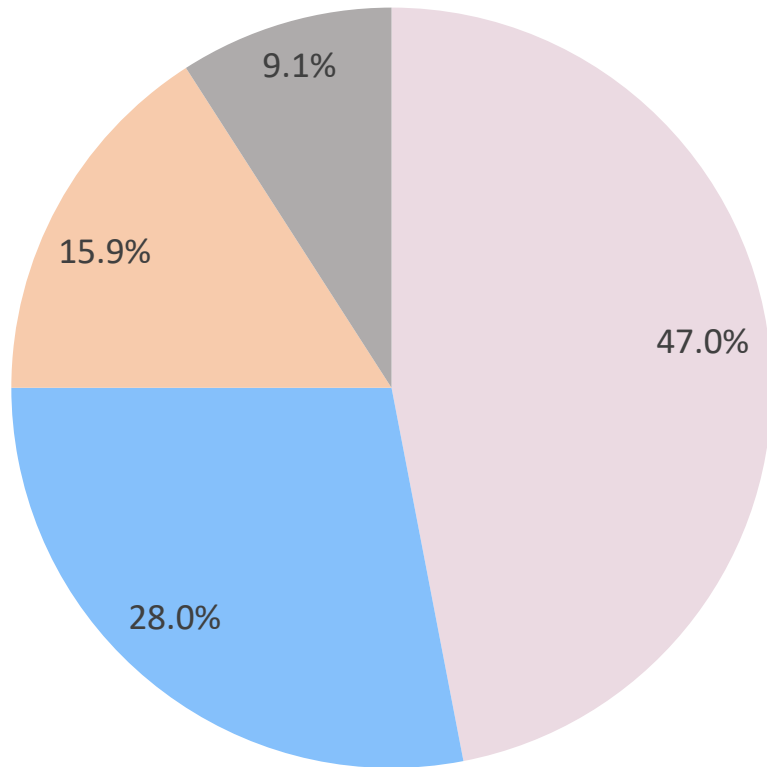
### 取扱説明書の確認について



全体の23.5%は取扱説明書を理解していない、もしくは読まずに抱っこひもを使用

## 事故がありました【132件】について

### 使用方法について

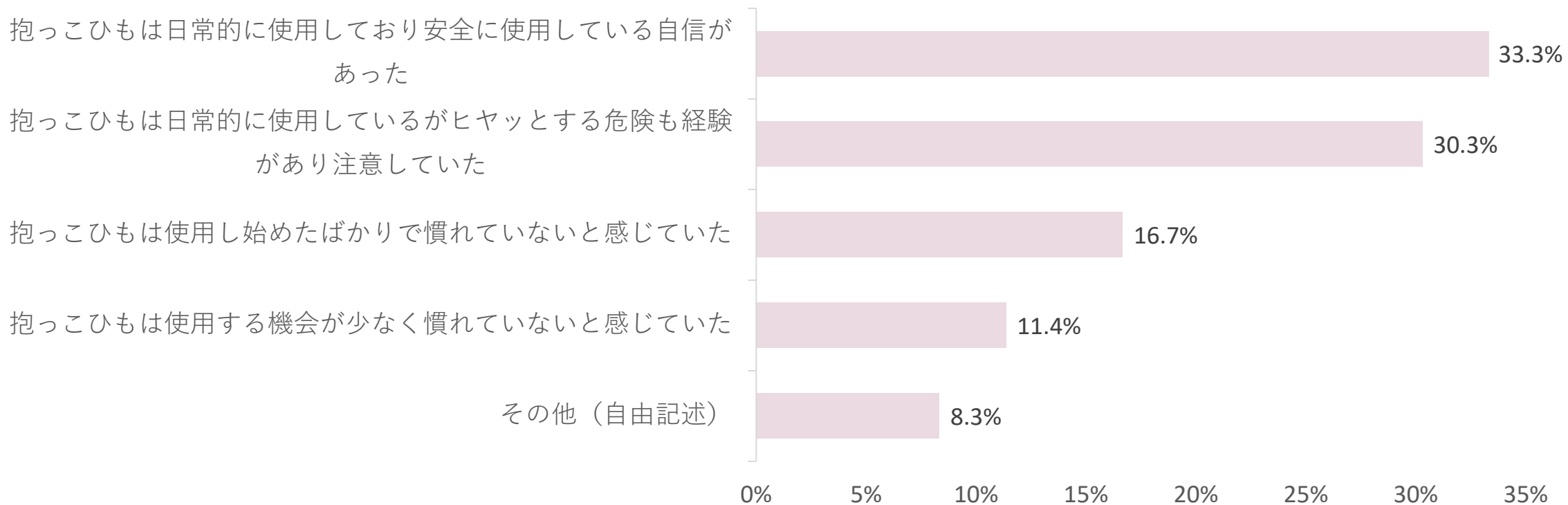


- 取扱説明書のとおり装着していた
- 取扱説明書のとおり装着していたが、ベルトの緩み等があったと思う
- 取扱説明書は関係なく自分なりの方法で装着していた
- その他（自由記述）

取扱説明書のとおり装着していたと回答した割合が前回と比較して大幅に減少（62%→47%）  
ベルトのゆるめて使うことも想定した構造が求められる

## 事故がありました【132件】について

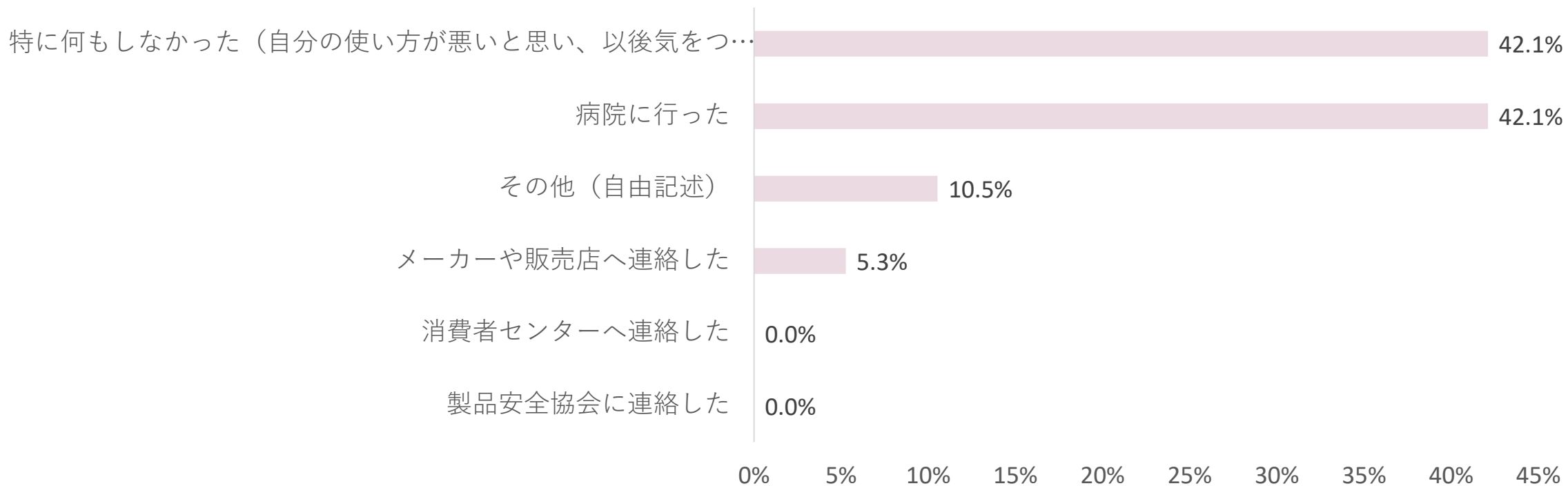
### 使用時の感覚について



ヒヤリハットや不慣れを実感していても使い続けていることで事故が発生している。

## 事故がありました【132件】について

### 事故対応について

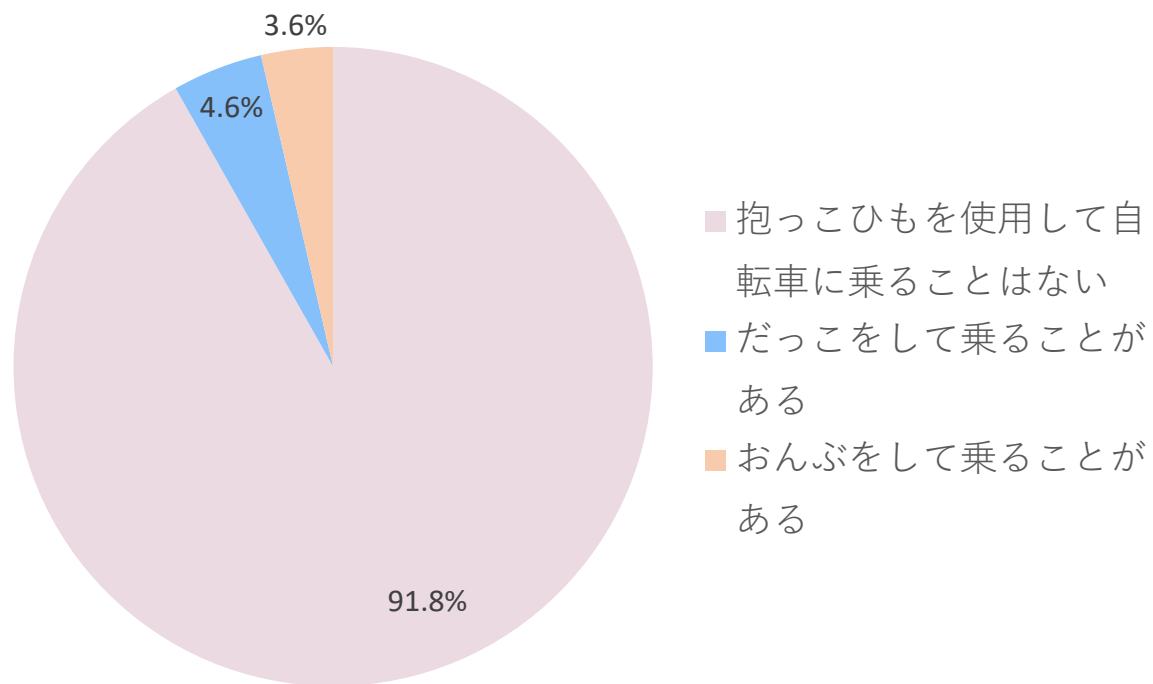


約95%の人はメーカーへの報告をしていない  
→メーカーが把握できていない事故が数多くある可能性



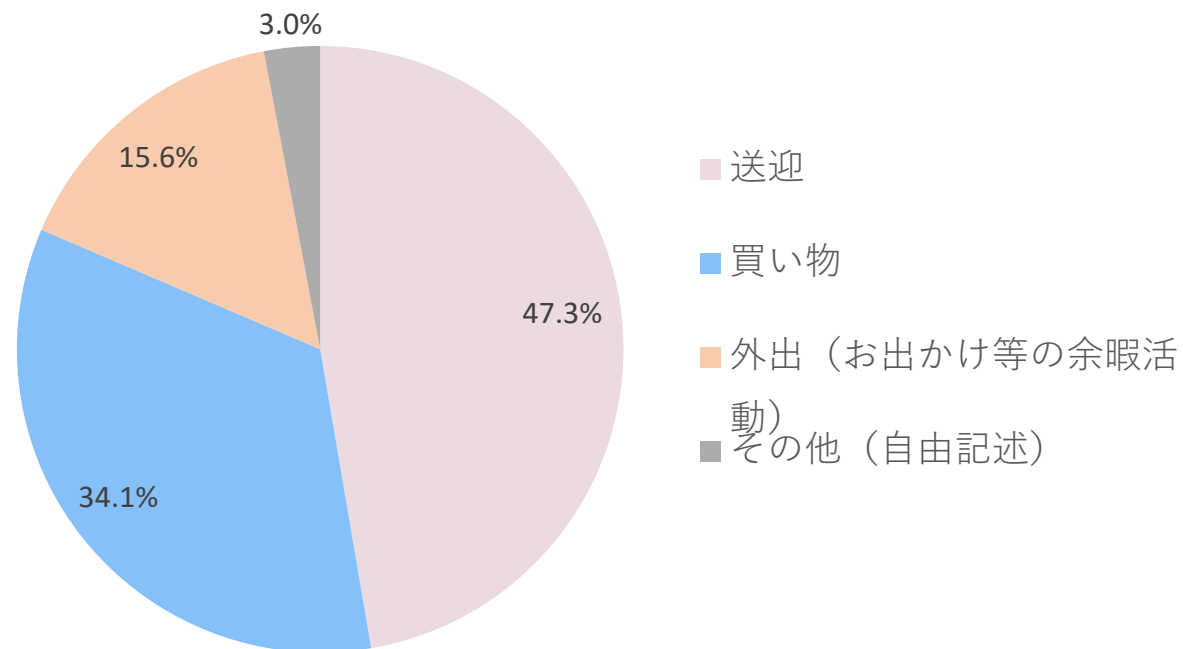
## 自転車の利用について

抱っこひもを使用して自転車を利用するか



前回とほぼ内容は変わらず。抱っこ、おんぶをして乗ることがある割合が微増。

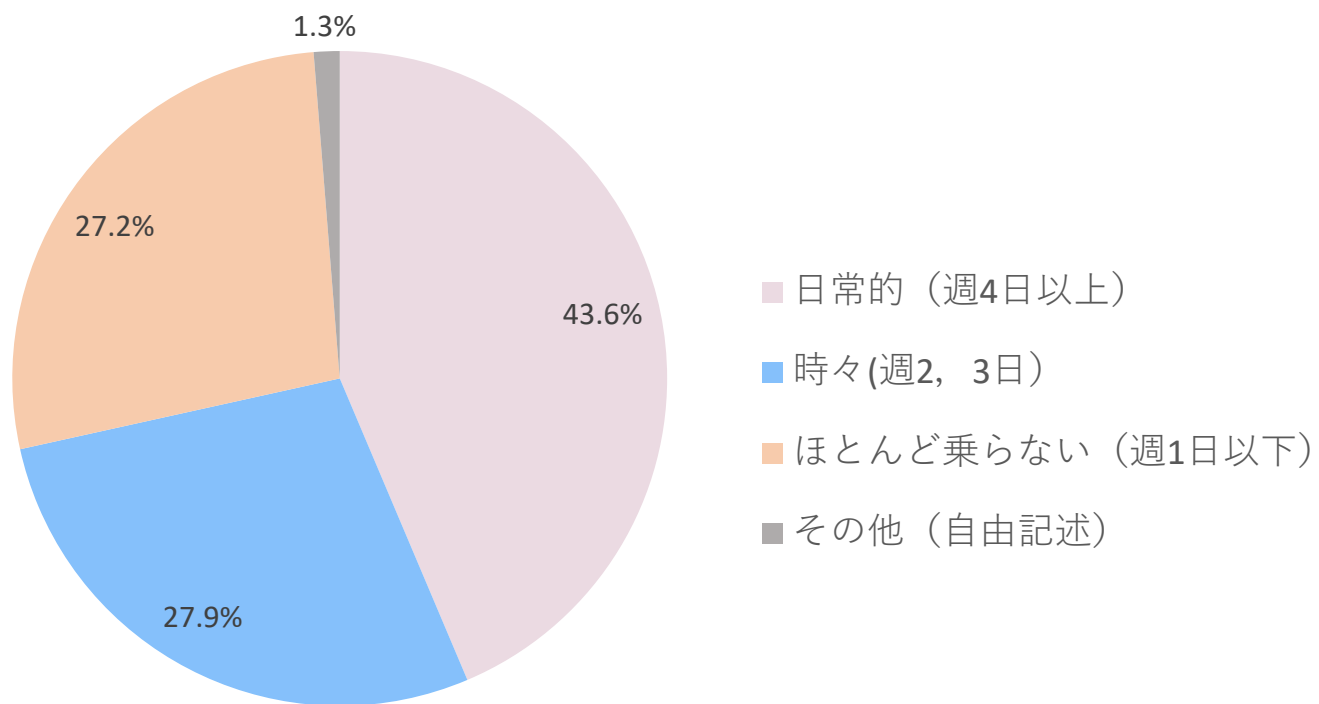
自転車に乗る目的



送迎の割合が高く47%。（前回よりもマイナス2ポイント）

## 自転車の利用について

### 自転車に乗る頻度

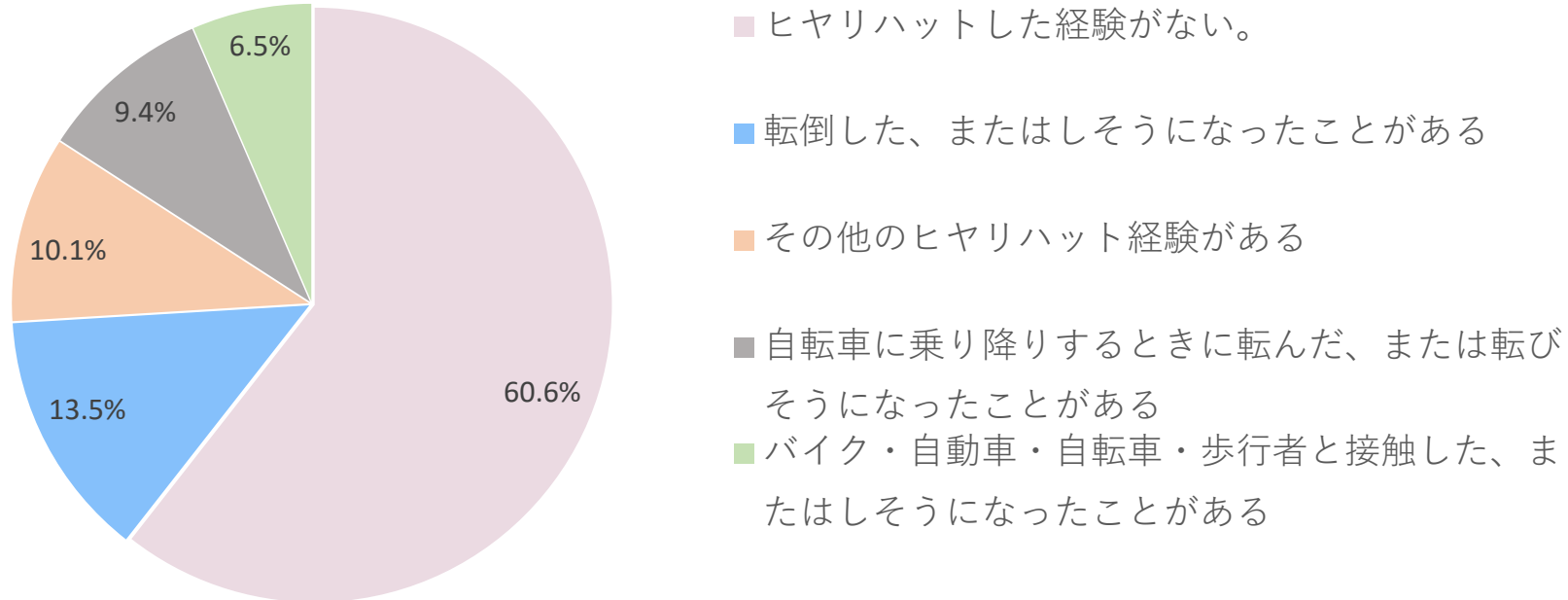


利用頻度はこれまでとほぼ同じ傾向。

## 自転車の利用について

ヒヤリハットは経験されましたか？

：抱っこひもを使用して自転車に乗ることはないと回答した4218名を除く回答者数【416名】



抱っこひも使用時の自転車でのヒヤリハットに関する回答では、バランスの崩れや他の自転車との衝突、横風や車の速度によるリスクが挙げられています。

一部の回答者は慎重に乗っているが、抱っこひも使用による視界やバランスへの影響に不安を感じる人います。



## 自転車の利用について

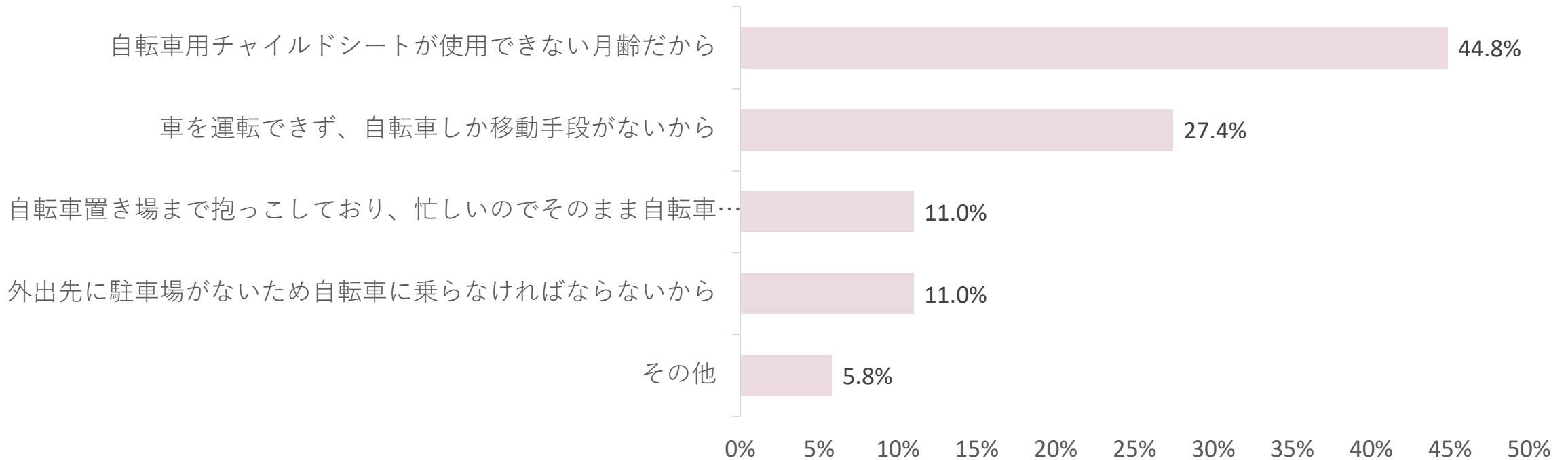
具体的な状況や内容について（自由記述）

- 雨の日の上の子送迎のため使用。傘が引っかかり転びそうになった。
- 自転車に乗る時に、バランスを崩して、ふらついて、転んだ。子どもは、たまたま運良くケガしなかった。
- 歩道で自転車とぶつかりそうになり、転倒。
- せまいみちですれ違う時、子供の足が歩行者に、ぶつかりそうだった。
- 雨の日にマンホールでスリップし転けそうになった。
- 自転車にまたいで動き出す際に、自転車が重くバランスが取りづらくてふらつくことがある。



## 自転車の利用について

抱っこひもを使用して自転車に乗る理由を教えてください。



自転車に乗ることは抱っこひも利用ユーザーにとって便利な移動手段です。

しかし、抱っこひも使用時のヒヤリハット体験に関する回答から分かるように、自転車利用時には一定のリスクが存在します。

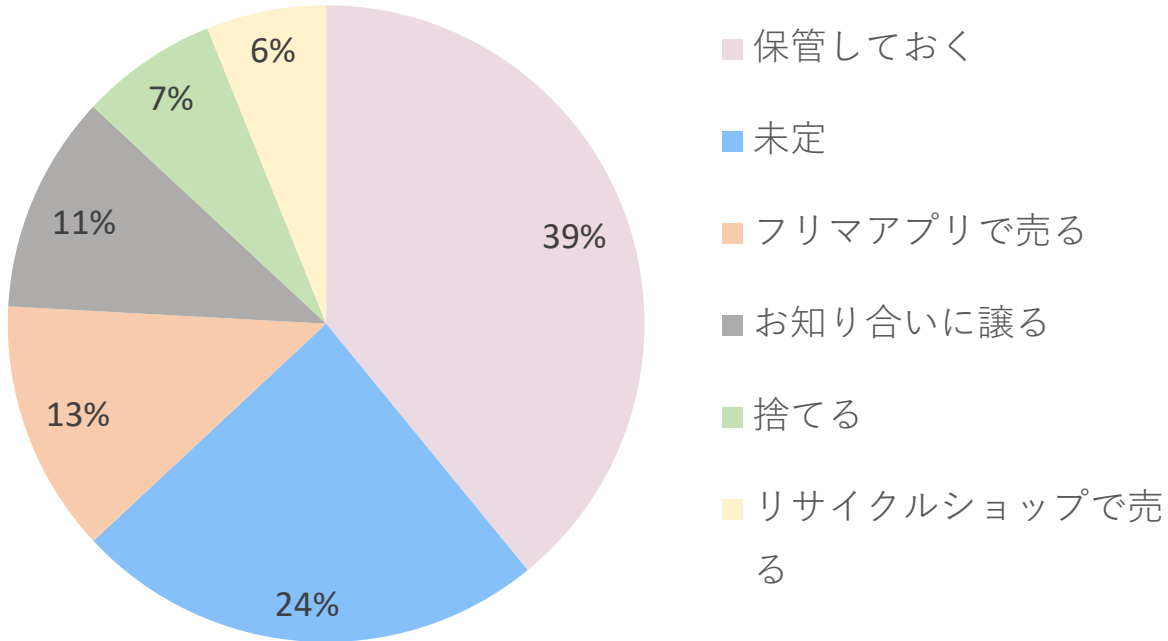
特にバランスの崩れや他の自転車との衝突、横風や車の速度による危険性が挙げられています。また、視界やバランスへの不安を感じる人もいます。

このことから、ヒヤリハットや事故を未然に防ぐ意識を高めることが大切です。

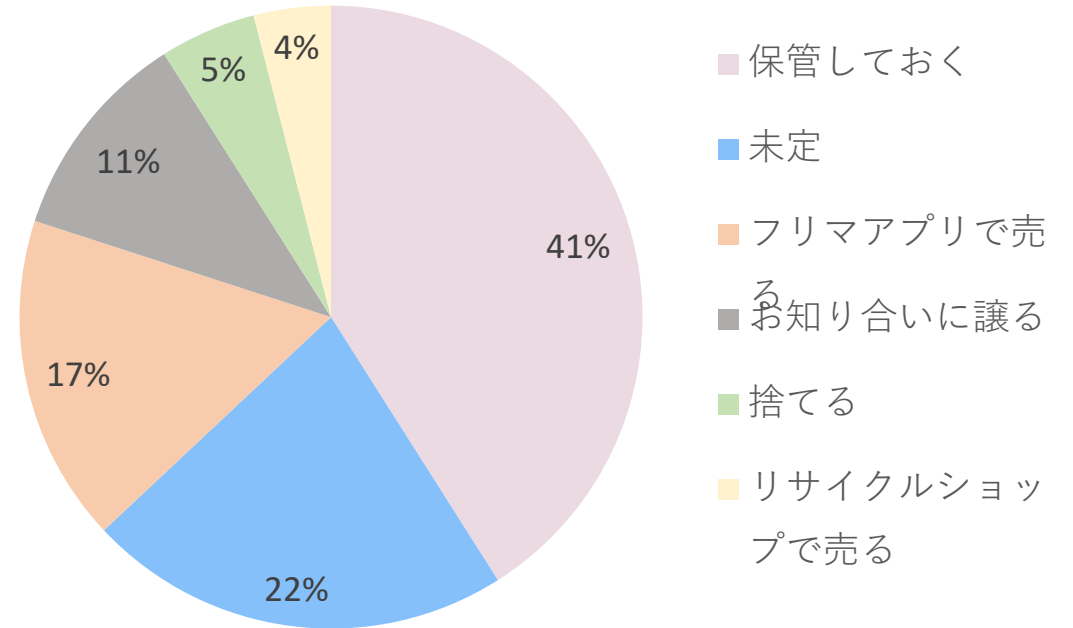
## 使用後の抱っこひもについて

今後使用する予定がなくなった抱っこひもはどうされますか

2024年度



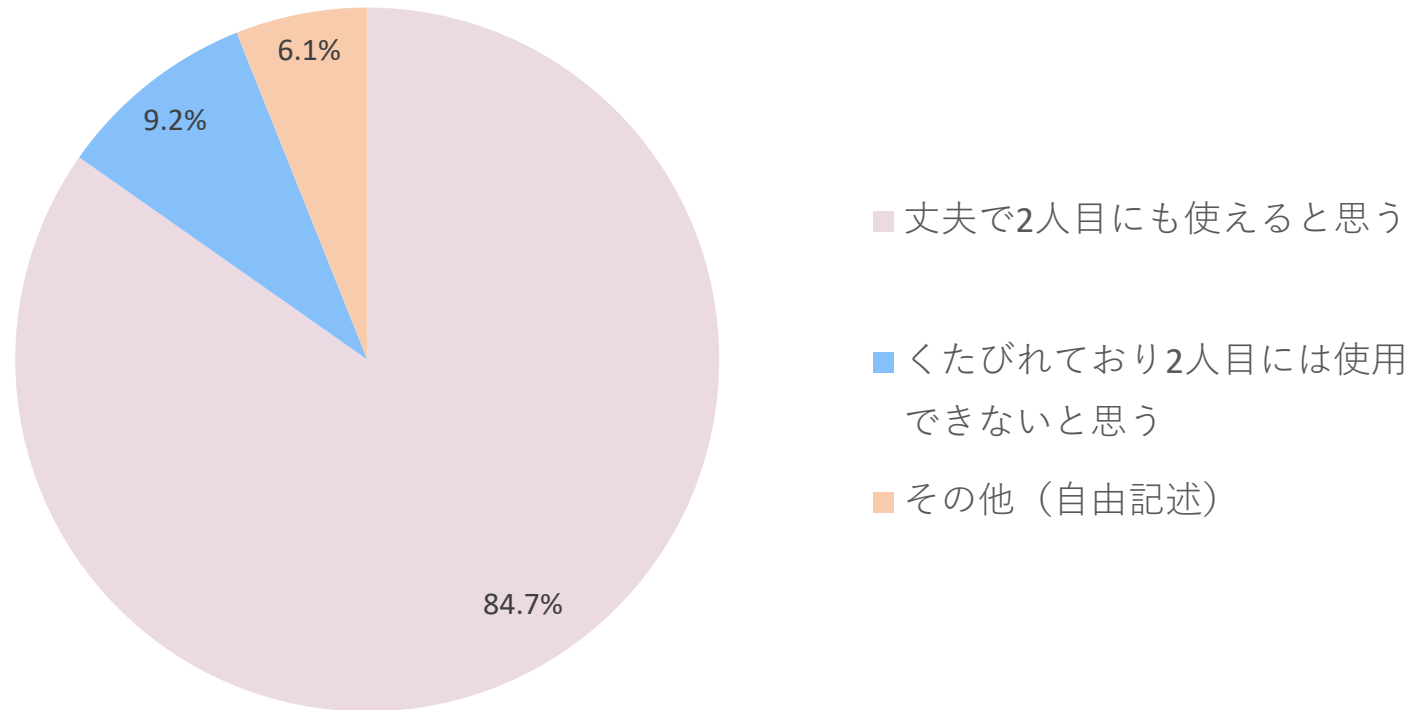
2023年度



フリマアプリで売ると回答した割合が約4ポイント減少。中古・おさがり入手が増えたためか。(7%→14%) 未定と回答した割合は17ポイントも増加。その他の割合は大きく変わらず。

## 使用後の抱っこひもについて

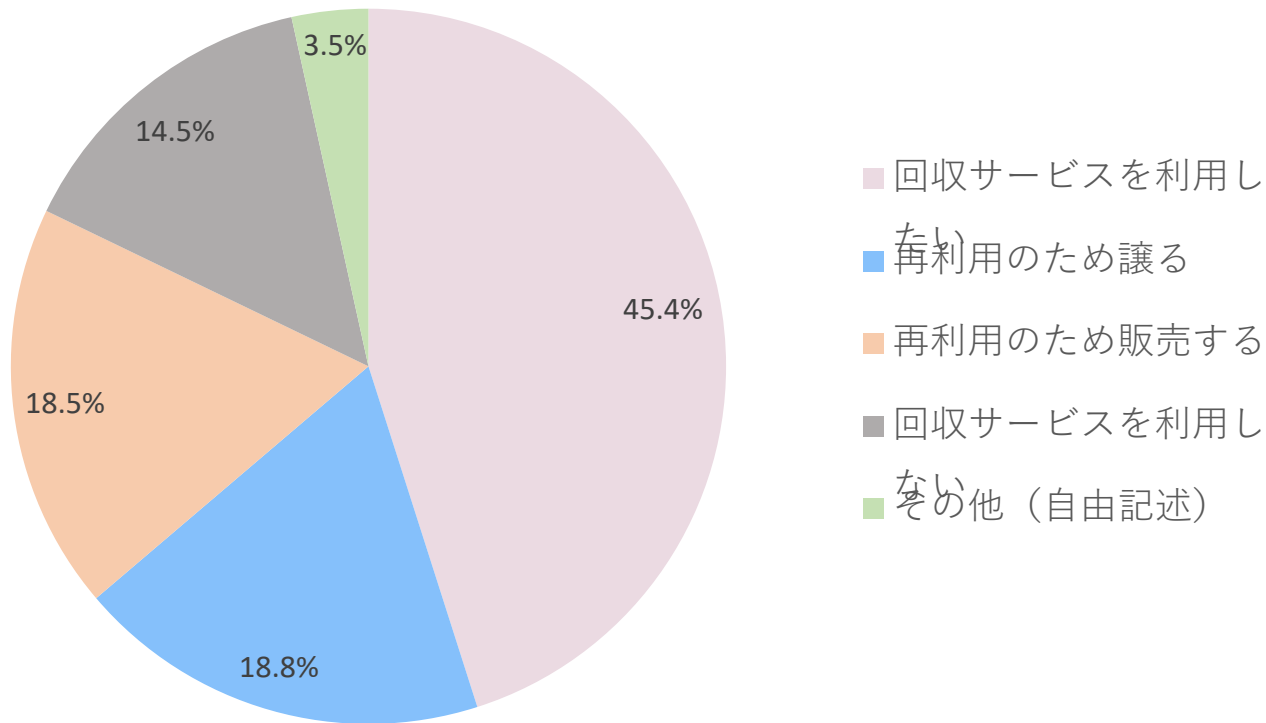
現在お使いの抱っこひもについて、お子様への使用時期が終了するとき抱っこひもはどのような状態になっていると思いますか？現在の抱っこひもの状況から推測してお答えください。





## 使用後の抱っこひもについて

サステナビリティの観点からもし「抱っこひも回収」無料サービスがあれば、回収に参加しますか？再  
利用ではなく、部位部品ごとに分け再生素材として生まれ変わります。

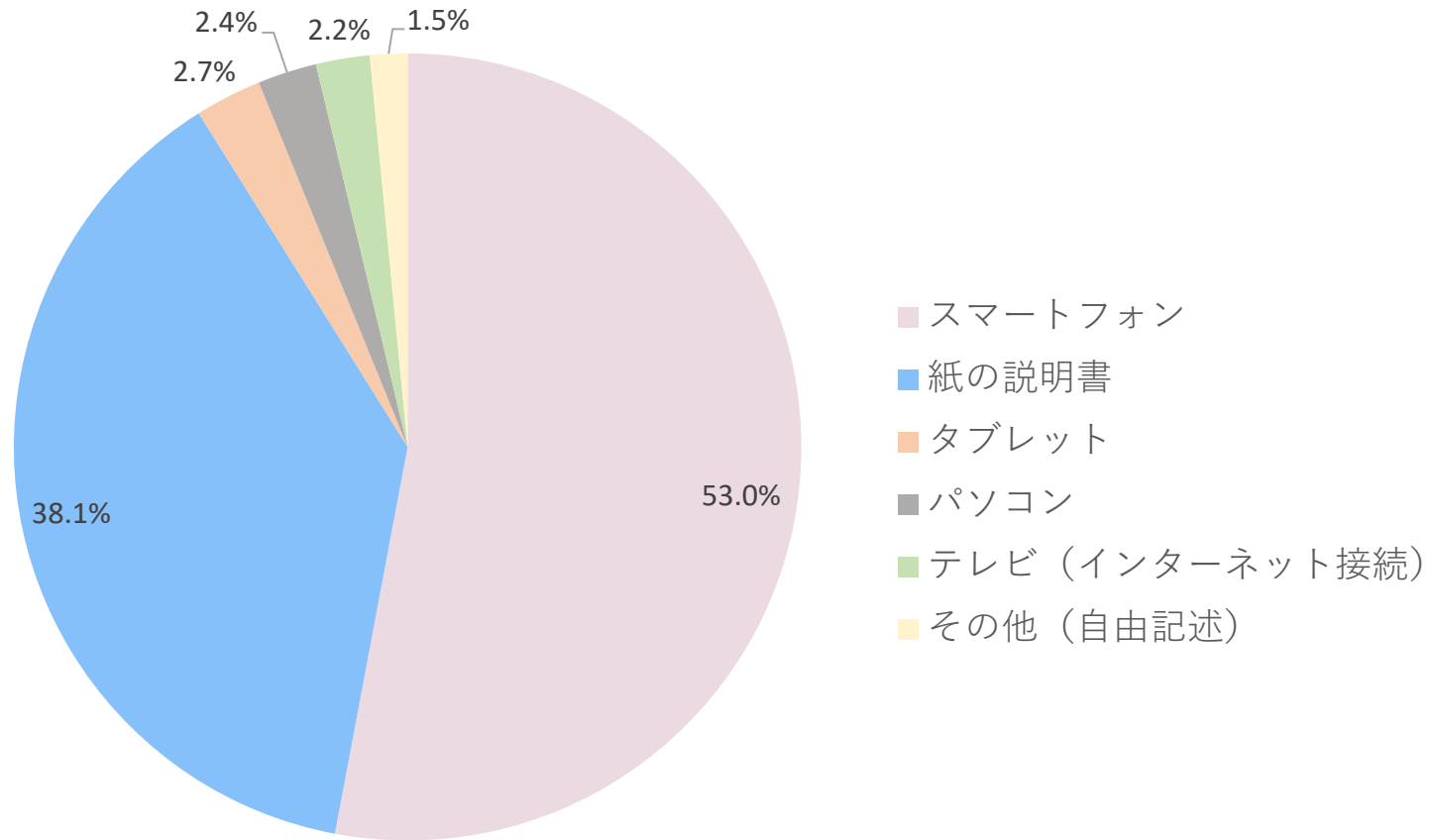


使用後の抱っこひもを譲ると回答した割合が18%、販売すると回答した割合が18%。今後さらに2次利用が増えることが想定される。  
実際に中古・おさがり入手が今年度は増加（7%→14%）



## 使用デバイスについて

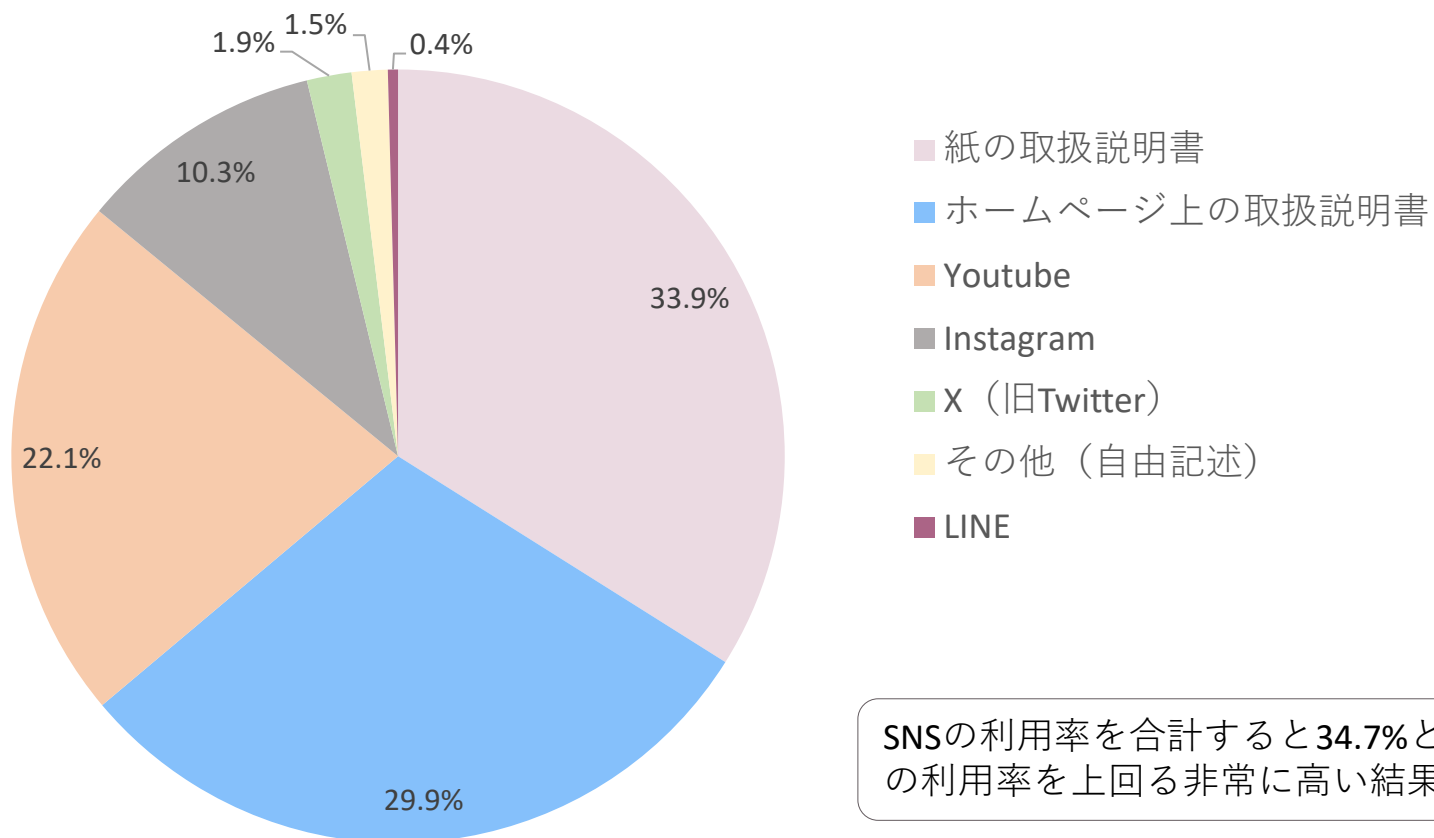
商品の使い方を調べた時に、どのようなデバイス（装置）を使用しましたか。（※複数回答）



紙の説明書でわかりにくい部分を動画等で補完的に理解している可能性。

## 使用デバイスについて

商品の使い方を調べた時に、どのような情報源やコンテンツを使いましたか。（※複数回答）





ヒヤリハットアンケートは以下の団体・事業者様のご協力により実施することができました。

一般財団法人 製品安全協会  
株式会社 赤ちゃん本舗  
日本トイザラス 株式会社  
リクルートゼクシィベビー編集部  
ベネッセコーポレーション  
ミキハウス子育て総研ハッピーノート編集部  
小学館Hugkumi編集部  
主婦の友社Baby-mo編集部  
アクセスインターナショナルFQ Japan編集部

多大なるご協力に深く感謝申し上げます。

抱っこひも安全協議会  
ホームページ分科会  
ベビービョルン株式会社



**抱っこひも安全協議会**

Japan Baby Carrier Council Safety

ホームページ分科会

ベビーヴォルン株式会社